

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果と分析

令和5年10月

板橋区教育委員会事務局指導室

# 目 次

I	令和5年度 全国学力・学習状況調査の概要	1
1	調査の目的	
2	調査の対象学年、調査方式	
3	調査の内容	
4	調査実施日	
5	調査を実施した学校数及び対象児童・生徒数	
II	教科に関する調査結果	
1	平均正答率の比較	2
2	平均無解答率の比較	2
3	正答数分布・観点別正答率からみた分析及び考察	
(1)	国語	5
①	小学校	
②	中学校	
(2)	算数・数学	6
①	小学校	
②	中学校	
(3)	英語（聞くこと・読むこと・書くこと）	7
①	中学校	
4	各教科の結果の特徴	
(1)	小学校 国語・中学校 国語	8
(2)	小学校 算数・中学校 数学	12
(3)	中学校 英語	16
III	児童・生徒質問紙に関する調査結果と正答率との関係性	
1	小学校	18
2	中学校	27
IV	学校質問紙に関する調査結果（全国との比較からみた分析及び考察）	
1	小学校	36
2	中学校	38
V	まとめ	40

# **I 令和5年度 全国学力・学習状況調査の概要**

## **II 教科に関する調査結果**

# I 令和5年度 全国学力・学習状況調査の概要

## 1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・本取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査の対象学年、調査方式

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童・生徒

## 3 調査の内容

### (1) 教科に関する調査

(ア) 小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語及び数学及び英語とする。

(イ) 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(ウ) 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童・生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

## 4 調査実施日

令和5年4月18日（火）

## 5 調査を実施した学校数及び対象児童・生徒数

	実施学校数	実施対象 児童・生徒数
小学校	52校（全校）	3,651人
中学校	22校（全校）	2,814人

## Ⅱ 教科に関する調査結果

### 1 平均正答率の比較（令和5年度における板橋区・東京都・全国の正答率）

※ 国語、算数・数学、英語の平均正答率を東京都・全国と比較した。

英語（話すこと）は令和5年度に初めての実施である。

英語（聞くこと・読むこと・書くこと）は3年に1度の実施である。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため実施なし

小学校		平均 正答率(%)		令和4年度 における差	令和3年度 における差	平成31年度に おける差
国語	区	69	差			
	都	69	0	-3.0	-1.0	-3.2
	国	67.2	1.8	0.4	2.3	-1.8
算数	区	66	差			
	都	67	-1.0	-2.0	-2.0	-3.1
	国	62.5	3.5	1.8	1.8	0.2

中学校		平均 正答率(%)		令和4年度 における差	令和3年度 における差	平成31年度に おける差
国語	区	70	差			
	都	72	-2.0	-2.0	0	-1.8
	国	69.8	0.2	-1.0	2.4	-0.1
数学	区	51	差			
	都	54	-3.0	-3.0	-1.0	-2.2
	国	51	0	-0.4	1.8	-0.4
英語 (聞く・ 読む・ 書く)	区	48	差			
	都	52	-4.0			-3.5
	国	45.6	2.4			-1.1
英語 (話す)	区	12	差			
	都	-	-			
	国	12.4	-0.4			

### 2 平均無解答率の比較（令和5年度における板橋区・全国の無解答率）

※国語、算数・数学、英語の平均無解答率を全国と比較した。

小学校		令和5年度		令和4年度		令和3年度		平成31年度	
国語	区	6.0	差	8.3	差	5.6	差	9.1	差
	都	6.3	-0.3	7.4	+0.9	5.4	+0.2	7.4	+1.7
	国	4.8	+1.2	5.7	+2.6	4.5	+1.1	6.2	+2.9
算数	区	3.8	差	4.7	差	3.2	差	3.9	差
	都	4.0	-0.2	4.0	+0.7	3.0	+0.2	3.2	+0.7
	国	3.4	+0.4	3.5	+1.2	2.6	+0.6	2.7	+1.2

中学校		令和5年度		令和4年度		令和3年度		平成31年度	
国語	区	4.3	差	4.4	差	3.9	差	3.0	差
	都	4.2	+0.1	4.0	+0.4	3.8	+0.1	2.7	+0.3
	国	4.6	-0.3	4.3	+0.1	4.4	-0.5	2.6	+0.4
数学	区	9.5	差	11.3	差	6.4	差	7.2	差
	都	8.6	+0.9	9.9	+1.4	10.5	-4.1	7.2	0
	国	9.6	-0.1	10.8	+0.5	11.2	-4.8	7.3	-0.1
英語 (聞く・読む・ 書く)	区	5.4	差					5.8	差
	都	4.8	+0.6					5.4	+0.4
	国	5.7	-0.3					6.0	-0.2

平均正答率・平均無解答率の比較

※小学校・中学校それぞれ、無解答率の高い問題の種類を取り上げた。（考察含む）  
網掛けの問題は、「4 各教科の特徴」にて詳細な分析を記載する。

教科	問題番号	問題の概要	評価の観点	問題形式	無解答率(%)
小学校 国語	3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	思考・判断・表現	記述式	16.6
	3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	知識・技能	選択式	12.6
	2四	"資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く	思考・判断・表現	記述式	10.0
	1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	思考・判断・表現	記述式	7.5
	3一 (2)	【インタビューの様子】の傍線部イ（～というのは、どのような姿ですか。）のように質問をした理由として適切なものを選択する	思考・判断・表現	選択式	6.0

出題された3題全ての記述式の問題の無解答率が高かった。話の内容や図表やグラフに基づいて自分の考え方をまとめる力を育成することに課題があり、また、知識・技能の正答率が高い値が出ているため、知識及び技能を活用することに課題があると考えられる。

小学校 算数	4(3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	思考・判断・表現	記述式	14.3
	4(4)	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ	知識・技能	選択式	5.9
	4(2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	知識・技能	短答式	5.4
	3(4)	66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	思考・判断・表現	選択式	4.3
	3(2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	思考・判断・表現	記述式	4.2

児童質問紙「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に肯定的な回答をした児童の割合が高い学校ほど、4(3)における無解答率が低い傾向が見られた。授業で日頃から、根拠を基に筋道を立てて考える力を育成する必要性があると考えられる。

中学校 国語	4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているのかについて、古典と比較して書く	思考・判断・表現	記述式	19.3
	3四	『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	思考・判断・表現	記述式	10.2
	3二	漢字を書く（おし量って）	知識・技能	短答式	9.3
	1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	思考・判断・表現	記述式	7.8
	4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す（いと）	知識・技能	短答式	5.3

生徒質問紙「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」に肯定的な回答をした生徒の割合が高いほど、上記問題での無解答率が低い傾向が見られ、特に4三とは強い相関が見られた。授業ごとに生徒が自身の学習状況を把握し、次の学習につなげることが重要であると言える。

また、児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都教育委員会）の質問項目「自分が書いた文書を読み返し、分かりやすい表現になるように書き直している。」で否定的な回答をした生徒の割合が高い学校と無解答率に強い相関があり、後述する授業革新のポイント（4三）等を参考に、根拠を明確にして書く力を高める授業を実施する。

教科	問題番号	問題の概要	評価の観点	問題形式	無解答率(%)
中学校 数学	9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	思考・判断・表現	記述式	23.9
	6(3)	はじめの数にける数がかいくつ、たす数がかいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	思考・判断・表現	記述式	23.4
	7(2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	思考・判断・表現	記述式	22.8
	9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	知識・技能	短答式	15.3
	8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	思考・判断・表現	記述式	13.7
	5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	知識・技能	短答式	11.3

全体的に無解答率が高く、特に記述式の問題は高い傾向にある。生徒質問紙「中学2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に肯定的な回答をした生徒の割合が高い学校ほど、上記問題の無解答率が低い傾向があり、特に9(1)と6(3)は強い相関が見られた。板橋区授業スタンダードを徹底し、生徒自ら学習の見通しをもち、課題を解決する授業を展開し、主体的な学びを充実させることが重要である。

中学校 英語	8(2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	思考・判断・表現	記述式	28.4
	9(2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	知識・技能	短答式	23.1
	10	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	思考・判断・表現	記述式	20.7
	9(1)②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	知識・技能	短答式	9.8
	9(1)①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	知識・技能	短答式	6.3

生徒質問紙「中学2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」に肯定的な回答をした生徒の割合が高い学校ほど、上記問題の無解答率が低い傾向があり、英語の授業では特に、自分の学習状況を把握して、よりよい文章をつくるために粘り強く試行錯誤する態度を育成することが重要である。

次ページ以降に示す相関は、便宜上以下のとおり相関係数を基にして表記している。

0.7以上1.0未満 「強い正の相関がある」

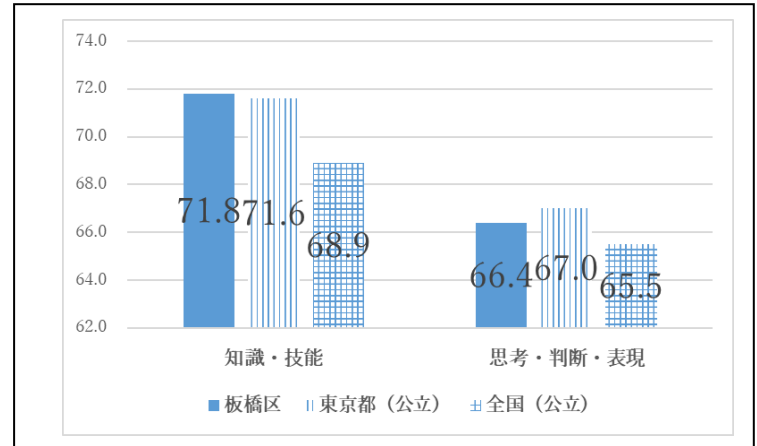
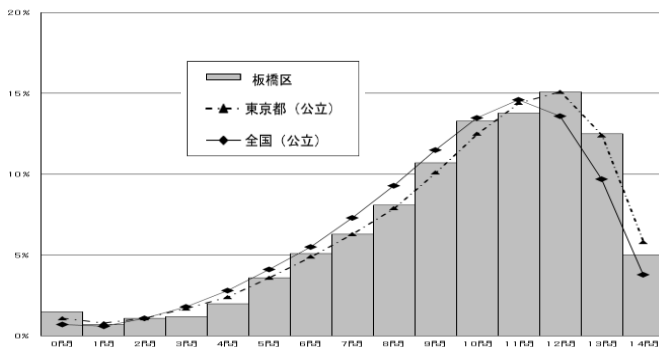
0.4以上0.7未満 「正の相関がある」

-0.7以上-0.4未満 「負の相関がある」

### 3 正答数分布からみた分析及び考察

#### (1) 国語

##### ①小学校 正答分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合） 観点別正答率グラフ



○平均正答率は、全国より1.8 p高く、東京都と同等である。

○中央値は、板橋区10.0、東京都10.0、全国10.0である。

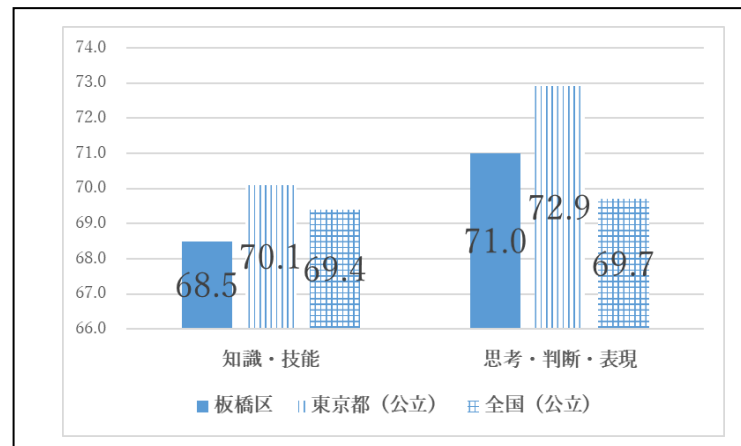
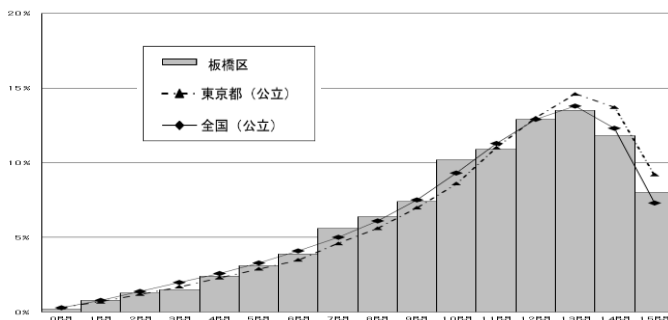
○平均正答数は、板橋区9.7、東京都9.7、全国9.4である。

○観点別正答率は、以下のとおりである。

\*知識・技能の問題では、全国より2.9 p高く、東京都より0.2 p高い。

\*思考・判断・表現の問題では、全国より0.9 p高く、東京都より0.6 p低い。

##### ② 中学校 正答分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合） 観点別正答率グラフ



○平均正答率は、全国より0.2 p高く、東京都より2.0 p低い。

○中央値は、板橋区11.0、東京都12.0、全国11.0である。

○平均正答数は、板橋区10.5、東京都10.8、全国10.5である。

○観点別正答率は、以下のとおりである。

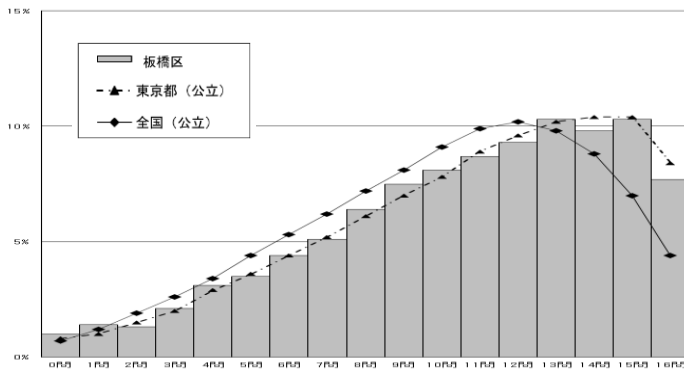
\*知識・技能の問題では、全国より0.9 p低く、東京都より1.6 p低い。

\*思考・判断・表現の問題では、全国より1.3 p高く、東京都より1.9 p低い。

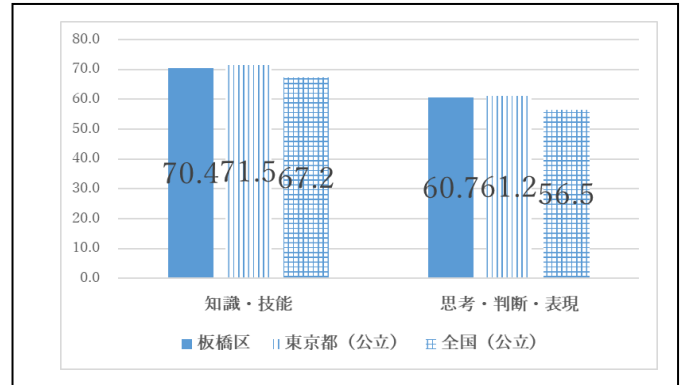


## (2) 算数・数学

### ①小学校 正答分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）

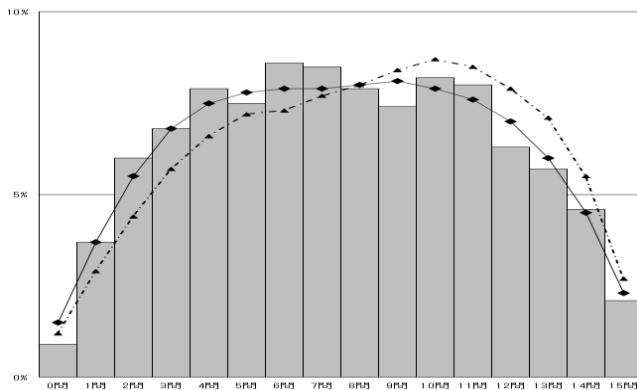


### 観点別正答率グラフ

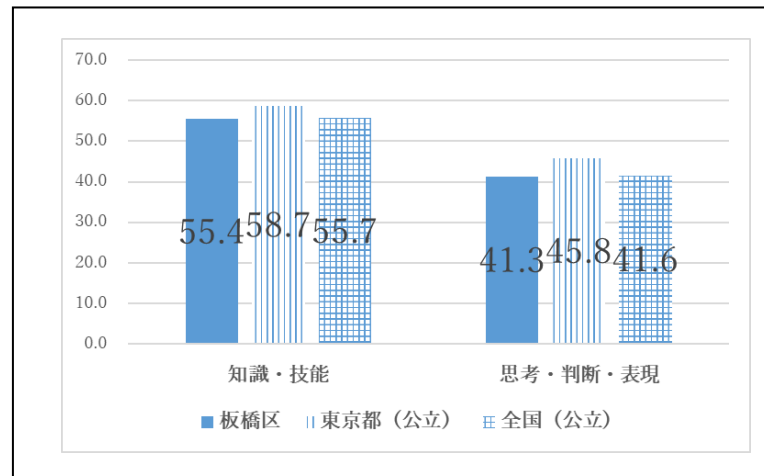


- 平均正答率は、全国より3.5 p高く、東京都より1 p低い。
- 中央値は、板橋区11.0、東京都11.0、全国11.0である。
- 平均正答数は、板橋区10.6、東京都10.7、全国10.0である。
- 観点別正答率は、以下のとおりである。
  - \*知識・技能の問題では、全国より3.2 p高く、東京都より1.1 p低い。
  - \*思考・判断・表現の問題では、全国より4.2 p高く、東京都より0.5 p低い。

### ②中学校 正答分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



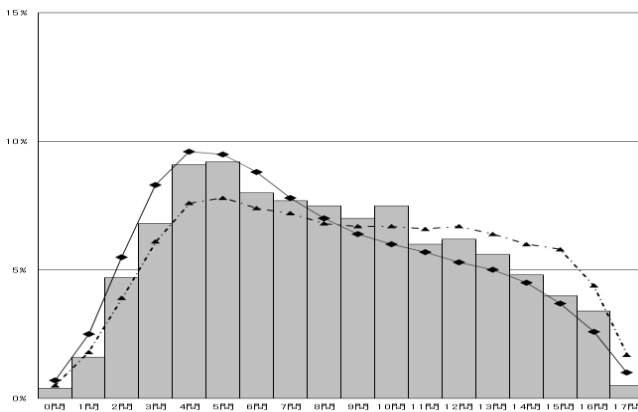
### 観点別正答率グラフ



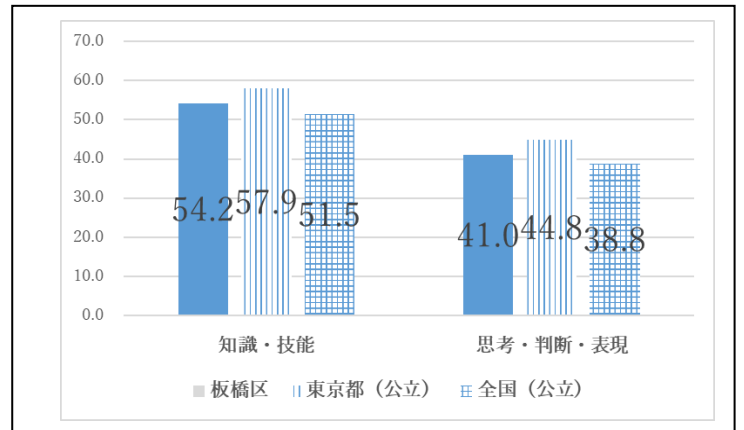
- 平均正答率は、全国と同等であり、東京都より3.0 p低い。
- 中央値は、板橋区8.0、東京都8.0、全国8.0である。
- 平均正答数は、板橋区7.6、東京都8.2、全国7.6である。
- 観点別正答率は、以下のとおりである。
  - \*知識・技能の問題では、全国より0.3 p低く、東京都より3.3 p低い。
  - \*思考・判断・表現の問題では、全国より0.3 p低く、東京都より4.5 p低い。

(3) 英語

正答分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



観点別正答率グラフ



- 平均正答率は、全国より2.4 p高く、東京都より4.0 p低い。
- 中央値は、板橋区8.0、東京都9.0、全国7.0である。
- 平均正答数は、板橋区8.2、東京都8.8、全国7.7である。
- 観点別正答率は、以下のとおりである。
  - \*知識・技能の問題では、全国より2.7 p高く、東京都より3.7 p低い。
  - \*思考・判断・表現の問題では、全国より2.2 p高く、東京都より3.8 p低い。

## 4 各教科の結果の特徴

### (1) 小学校 国語

#### ① 成果のあった問題

正答率 板橋区 69.5% 東京都 68.2% 全国 64.7%

【1ー】 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から+1.3 p）（全国から+4.8 p）

無解答率 板橋区 2.4% 東京都 2.8% 全国 1.8%

#### 問題

- 4 【カード②】の部は考え、【カード③】の部は事例について書かれている。
- 3 【カード②】の部は目標、【カード③】の部は計画について書かれている。
- 2 【カード②】の部は結果、【カード③】の部は原因について書かれている。
- 1 【カード②】の部は部分、【カード③】の部は全体について書かれている。

川村さんは、カードを選んだ際に、「カード②」の部と、「カード③」の部に関係があることに気づきました。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

#### 【カード①】

6月24日

- 思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
- このまま雑草が増えたら米のしゅうかくにえいしょうするのではないかと心配だ。

#### 【カード②】

6月30日

- 雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。
- どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
- 調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
- 調査さかん 7月1日～15日

#### 【カード③】

7月19日

- 学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
- 雑草の量と米のしゅうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

#### 【カード④】

7月20日

- 農家の石山さんのお話
- 雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
- 雑草が多いと、いねが病気になることがある。
- 農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

#### 【カード⑤】

7月21日

【学校でできる解決方法】

- 雑草取りの回数を増やす。
- 雑草取りの人数を増やす。

1 川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書こうとしています。次は、「川村さんの考え」と川村さんが選んだ「カード①」から「カード⑤」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

#### 【川村さんの考え】

雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて、問題点とその解決方法を書こう。

川村さん

#### 内容・趣旨

##### \*学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕知識及び技能

##### (2) 情報の扱い方に関する事項

ア原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。

\*趣旨 原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

#### 考察

- ・正答率は、東京都を1.3 p、全国を4.8 p上回った。
- ・この指導事項は、平成29年告示の小学校学習指導要領で新設されたものであり、本調査で取り上げることも初めてである。
- ・本調査の児童質問紙、『児童・生徒の学力向上を図るための調査』における回答との相関は見られなかった。

#### 授業革新のポイント

・原因と結果など情報と情報との関係を理解するには、ある事象がどのような原因によって起きたのかを把握したり、明らかにしたりすることが大切である。

##### 【授業革新例】

- ・様々な情報の中から原因と結果の関係を見だし、結び付けて考える学習活動を展開する。
- ・国語の授業だけでなく、総合的な学習の時間において、課題解決のために複数の資料から根拠を見付けて方策を考えさせる（推論）など、論理的に判断する学習に取り組ませる。

② 課題のあった問題 正答率 板橋区 26.7% 東京都 28.9% 全国 26.7%

【1二】 正答率が最も低い問題（東京都から－2.2p）（全国と同率）

無解答率 板橋区 7.5% 東京都 8.2% 全国 7.1%

問題

- （条件）  
○ 学校の米作りの問題点について、「川村さんの文章」のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と「カード④」のそれぞれから分かることを書くこと。  
○ 問題点の解決方法について、「カード⑤」をもとにして書くこと。  
六十文字以上、百字以内にはまらなくてよい。

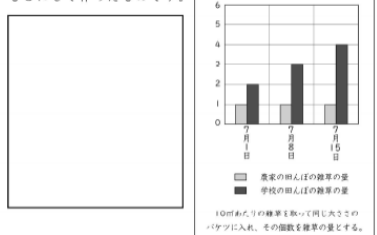
【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、アいがい雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイくらべてみました。ウきかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



このようなことに取り組む、9月の下旬にお米をしょうかくすることができました。

二 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の問題点とその解決方法について書くこととしています。あなたが川村さんなら、に学校の米作りに入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【カード①】

6月24日  
・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。  
・このまま雑草が増えたら米のしょうかくにえいさようするのではないかと心配だ。

【カード②】

6月30日  
・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。  
・どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。  
・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量くらべる。  
・調査きかん 7月1日～15日

【カード③】

7月19日  
・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。  
・雑草の量と米のしょうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

【カード④】

7月20日  
【農家の石山さんのお話】  
・雑草に栄養をとられると、米のしょうかくが減る。  
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。  
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日  
【学校でできる解決方法】  
・雑草取りの回数を増やす。  
・雑草取りの人数を増やす。

1 川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書くこととしています。次は、「川村さんの考え」と川村さんが選んだ「カード①」から「カード⑤」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【川村さんの考え】  
雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかった。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて問題点とその解決方法を書こう。

川村さん

内容・趣旨

\*学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等

B 書くこと

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

\*趣旨 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

考察

- ・平均正答率は、本区は全国に比べて高いが、本問題においては、全国と同等であり、東京都より2.2p下回っている。
- ・正答となる〈条件〉では、「川村さんの文章のグラフからわかることを書く」とことと「カード④から分かることを書く」とことの2点を踏まえる必要があるが、一方しか満たしていないことによる誤答が多い。前者しか満たしていない誤答は19.2%、後者しか満たしていない誤答は19.9%であった。問題を正しく捉えること、または、2つの事柄を踏まえ、まとめて表現することに課題があると考えられる。

授業革新のポイント

- ・本問は、情報と情報との関係を捉えたり、グラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、様々な情報の中から原因と結果の関係を見だし、結び付けたりして考えることが求められる。
- ・情報を正しく捉え、書いた文章について感想や意見を友達と伝え合い、自分の文章のよさや改善点を知り、推敲する活動を取り入れることが重要である。

【授業革新例】

- ・条件（例：字数、基にする資料）を与え、文章を書かせる。
- ・算数や社会等でグラフや図を言葉で表現する学習に丁寧に取り組む。グラフを説明する言葉（例：増え続けている）を習得したり、グラフから分かることを表現させたりする。（イメージ同定）

## 4 各教科の結果の特徴

### (1) 中学校 国語

#### ① 成果のあった問題

正答率 板橋区 83.7% 東京都 84.7% 全国 82.5%

#### 【1四】 無解答率が都や全国の平均より低い問題（東京都から+0.9p）（全国から+3.0p）

無解答率 板橋区 7.8% 東京都 8.7% 全国 10.8%

問題	内容・趣旨 考察 授業革新のポイント
<p>問題</p> <p>四 「インタビューの様子」の <input type="checkbox"/> で南さんは、インタビューを通して自分が考えた「社会で働く上で大切なこと」を星野さんに伝えてインタビューを終えようとしています。あなたなら、どのように話しますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。</p> <p>なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。</p> <p>条件1 「インタビューの様子」から、星野さんの話の内容を具体的に取り上げて書くこと。</p> <p>条件2 条件1で取り上げた内容を踏まえ、「社会で働く上で大切なこと」についてあなたが考えたことを書くこと。</p> <div data-bbox="191 1064 430 1904"></div>	<p>内容・趣旨</p> <p>＊学習指導要領における領域・内容 第1学年 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと エ</p> <p>＊趣旨 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。</p> <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらかの条件を満たさない回答の生徒の割合が、全国平均と東京都平均を上回った。</li> <li>・無解答率が東京都や全国平均を下回った。</li> <li>・2四でも、同様に、自分の考えを記入できた生徒の割合が全国平均と同等であり、無解答率は東京都や全国平均よりも低かった。</li> <li>しかし、全ての条件に合わせた回答ができていない生徒の割合が東京都や全国平均より高かった。</li> </ul> <p>授業革新のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞くことの指導においては、聞きながら考えたり、聞いたことを基に考えたりすることが重要である。</li> <li>・聞き取ったことと自分の考えを比較し、その共通点や相違点を踏まえて、自分の考えをまとめることが求められる。</li> </ul> <p>【授業革新例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューの様子を録画した動画を視聴し、自分がインタビュアーならば、インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるかを考える学習活動が考えられる。その際、聞きながら考えたり、聞いたことを基に考えたりできるように、必要な情報やその場で気付いたことを書き留めるよう指導する</li> <li>・それぞれが考えたまとめの言葉について交流し、聞き取ったことを基に自分の考えをもつことができているか、場にふさわしい伝え方になっているかなどについて、生徒同士が検討する場面を設定する。</li> </ul>



②課題のあった問題 正答率 板橋区 48.6% 東京都 54.1% 全国 50.0%

【4三】 正答率が全国平均よりも低い問題（東京都から－5.5 p）（全国から－1.4 p）

無解答率 板橋区 19.3% 東京都 18.1% 全国 20.7%

問題

三 【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】は、古典の作品である「竹取物語」に、作家の星新一が工夫を加えて現代語で書いたものです。どこがどのように工夫されていると考えられますか。【授業で読んだ「竹取物語」の一部】や【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】の表現を取り上げて、あなたの考えを書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

内容・趣旨

＊学習指導要領における領域・内容

第1学年 思考力、判断力、表現力等

C 読むこと エ

＊趣旨

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。

考察

・全国平均及び東京都平均を下回った。

・問題文の条件を一部だけ満たす誤答解答をする生徒の割合が全国及び東京都平均を上回った。

・大問4は、一から三まで全ての問題の正答率が、全国平均及び東京都平均を下回った。

・生徒質問紙「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に肯定的な回答をした生徒との正の相関があった。

・「児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都教育委員会）」における、「国語の授業で、発表や話し合いのときは、話す内容や順序を考えてから話している。」に対する肯定的な回答と、正の相関があった。

授業革新のポイント

・表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが重要である。

・簡潔な述べ方と詳細な述べ方、断定的な述べ方と婉曲な述べ方、敬体と常態、和文調の文体と漢文調の文体、描写の仕方や比喻をはじめとした表現の技法などに着目することが考えられる。

【授業革新例】

・生徒が古典との距離を縮め、古典の世界に親しむためには、古典の現代語訳や古典について解説した文章などを教材として適切に取り上げ、生徒自身が古典の楽しみ方を見いだすことができるよう指導する。

・教科書に掲載されている現代語訳だけでなく、中学生などが楽しめるような現代語訳などを取り上げ、文章の構成や展開、表現の効果などに着目して工夫されているところを考える学習活動などが考えられる。その際、古典の原文と比較したり関係付けたりすることで、古典の原文やその作品の世界に生徒の興味・関心が向かうよう指導する。

## 4 各教科の結果の特徴

### (2) 小学校 算数

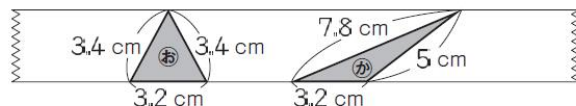
① 成果のあった問題 **正答率 板橋区 31.9% 東京都 29.5% 全国 20.8%**

【2(4)】 正答率が都や全国の平均より高い問題（東京都から+2.4p）（全国から+10.1p）

無解答率 板橋区 4.0% 東京都 4.6% 全国 4.0%

#### 問題

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくれます。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

#### 内容・趣旨

＊学習指導要領における内容

〔第5学年〕B 図形

(3) イ

(ア) 図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。

＊趣旨 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

#### 考察

・平均正答率は、31.9%と低いが、東京都や全国と比べると高い正答率である。2つの三角形の面積が等しいことを理解している児童（選択肢の3と解答）の割合は、50.1%であった。およそ半分の児童は、面積が等しくなることを理解できていないことは課題である。

・『児童・生徒の学力向上を図るための調査』の【学習の進め方】に関する質問において、4(2)「難しいと感じる問題でも、最後まであきらめずに取り組んでいる。」や 4(12)「他の人と相談して、考えを深めるようにしている。」に肯定的な回答をした児童の割合が高い学校で、本問題の正答率が高くなっている。

#### 授業革新のポイント

・算数科の学習においては、論理的に考えを進めてそれを説明したり、判断や考えの正しさを説明したりすることが大切である。

・本問は、高さが具体的に示されていない複数の三角形について、それらの面積の大小を判断するのに必要な情報を見いだすことができないことが課題であると考えられる。

#### 【授業革新例】

・問題解決に必要な条件について話し合う。  
・友達と交流し、多様な考え方や表現にふれる  
・「AだからB」のように、Aという理由及びBという結論を明確にして記述することができるように、OUTPUTさせていく（推論）

② 課題のあった問題 **正答率 板橋区 51.2% 東京都 54.2% 全国 47.6%**

【3(4)】 正答率が低い問題（東京都から-3.0 p）（全国から+3.6 p）

無解答率 板橋区 4.3% 東京都 4.8% 全国 3.9%

問題

(4) けんたさんは、 $66 \div 3$ の筆算について、次のように図を使ってふり返りました。

【けんたさんの説明】をもとにすると、 $66 \div 3$ の計算を、下のように考えることもできます。

【66÷3の筆算】	【けんたさんの説明】
手順1 $\begin{array}{r} 3 \overline{)66} \end{array}$	10を⑩、1を①で表して、60について考えます。 ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ① ① ① ① ① ①
手順2 $\begin{array}{r} 2 \phantom{0} \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \phantom{0} \end{array}$	⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ① ① ① ① ① ①
手順3 $\begin{array}{r} 2 \phantom{0} \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \phantom{0} \end{array}$	6について考えます。 ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ① ① ① ① ① ①
手順4 $\begin{array}{r} 22 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \phantom{0} \\ \phantom{0} \underline{6} \phantom{0} \end{array}$	⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ① ① ① ① ① ①
手順5 $\begin{array}{r} 22 \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \phantom{0} \\ \phantom{0} \underline{6} \phantom{0} \\ \phantom{00} \underline{0} \end{array}$	⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ① ① ① ① ① ①

$$\begin{aligned}
 66 \div 3 &= (\overset{\text{あ}}{60} + \underset{\text{え}}{6}) \div 3 \\
 &= \overset{\text{あ}}{60} \div 3 + \underset{\text{え}}{6} \div 3 \\
 &= \underset{\text{い}}{20} + \underset{\text{う}}{2} \\
 &= 22
 \end{aligned}$$

【66÷3の筆算】の手順2で十の位にたてた「2」は、上の式のあ、い、う、えのどの計算をした結果を表していますか。1つ選んで、その記号を書きましょう。

手順2

$$\begin{array}{r} 2 \phantom{0} \\ 3 \overline{)66} \\ \underline{6} \phantom{0} \end{array}$$

内容

\*学習指導要領における内容

〔第3学年〕 A 数と計算

(4) イ

(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

〔第4学年〕 A 数と計算

(3) ア

(ア) 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。

\*趣旨 (2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる。

考察

- ・正答率は、全国よりは3.6 p高かったが、東京都と比べると-3.0 pであった。誤答の内訳は、「あ」を選択した児童の割合は10.5%、「う」は26.9%、「え」は4.8%であった。
- ・「あ」や「え」を選択した児童は、十の位にたてた「2」を図と関連付けて考えることができていないことが考えられる。
- ・「う」の誤答が多いことから、筆算により正しい答えを出すことはできるが、筆算の仕方を計算の意味と結び付けて理解している児童が少ないと思われる。

授業革新のポイント

- ・計算の指導においては、筆算の計算の仕方を形式的に伝えるのではなく、数の仕組みや計算の意味に基づいて考えることが大切である。
- ・本問の $66 \div 3$ の場合、66を60と6に分け、60を10のまとまり6個とみて、 $6 \div 3 = 2$ と計算する。これは、10のまとまりが2個できることを意味している。あまりの6について3で割ると2となることから、 $66 \div 3$ の商は20と2を合わせた22となる。
- 【授業革新例】
- ・除法の筆算の手順を具体物や図に表したり、式に表したりする活動が考えられる。その際、除法の筆算が、被除数の66を60と6に分解して計算するという考え方に基いていることを理解できるようにする。
- ・具体物や図の操作から示唆された66を60と6に分解するという考え方が、第1学年で学習した、十を単位とした数の見方や2位数の表し方に基づいていることを理解できるようにする。



## 4 各教科の結果の特徴

### (1) 中学校 数学

① 成果のあった問題 **正答率 板橋区 58.9% 東京都 63.2% 全国 58.8%**

【6 (2)】 正答率が全国平均より高い問題 (東京都から－4.3 p) (全国から＋0.1 p)

#### 問題

調べたことから、夏希さんは、はじめの数としてどんな整数を入れても「はじめの数にかけられる数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になる」と予想しました。  
この予想が成り立つことを説明します。下の説明2を完成しなさい。

#### 説明2

はじめの数として入れる整数を $n$ とすると、はじめの数に2をかけた数は $n \times 2$ 、6をたした数は $n + 6$ と表される。  
計算結果は、

$$\begin{array}{l} n \times 2 + (n + 6) \\ = \end{array}$$

#### 内容・趣旨

＊学習指導要領における領域 第2学年 A数と式

＊趣旨 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。

#### 考察

・正答率、無解答率ともに全国平均を上回った。

・「 $n + 2$ は整数だから、 $3(n + 2)$ は3の倍数である」と完全解答した生徒の割合は、全国平均を3.6p下回ったものの、「 $3(n + 2)$ は3の倍数である」と記入できた生徒の割合が、全国平均を上回った。

・同領域、同内容の問題である、令和3年度6(2)においても、正答率、無解答率ともに全国平均を上回っていた。

・「児童・生徒の学力向上を図るための調査(東京都教育委員会)」における、「他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている」に対して「当てはまらない」と回答した生徒と、負の相関があった。

#### 授業革新のポイント

・文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解するためには、文字を用いた式を使って、ある命題が成り立つことを説明する場面で、文字を用いて表現したり、文字を用いた式の意味を読み取ったり、計算したりする学習が総合的に行われることが重要である。

・具体的な数で計算することから、成り立つ性質を生徒が見いだしたり、見いだした性質について文字を用いて表現する方法を検討したりするなどの機会を設けることが大切である。

・無意識に式の変形を行うのではなく、具体的な場面に即して式を変形することのよさを実感することに指導の力点を置く。

#### 【授業革新例】

・たす数が「3」のとき、はじめの数としてどんな整数を入れても計算結果が3の倍数になることから、たす数を3の倍数である「6」に変えても計算結果が3の倍数になるのではないかなどと予想を立てられるようにする。

・その上で、予想した事柄である「はじめの数にかけられる数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になる。」が成り立つことを説明するために、計算結果を表した式を「 $3 \times (\text{整数})$ 」の形にすればよいという見通しをもって、式を変形できるようにする。その際、 $n \times 2 + (n + 6)$ の式を計算し、 $3n + 6$ と表現した状態にとどまっているものを取り上げ、この式を用いて3の倍数になることを示すためには、「 $3 \times (\text{整数})$ 」という形の式で表せばよいことを確認し、 $3n + 6$ を $3(n + 2)$ と変形できるようにするなど、説明を洗練させる活動を取り入れる。

② 課題のあった問題 **正答率 板橋区 40.4% 東京都 44.9% 全国 42.8%**

【8 (3)】 **正答率が低い問題（東京都から－4.5 p）（全国から－2.4 p）**

無解答率 板橋区 3.7% 東京都 2.7% 全国 3.2%

問題

(3) 新緑大学が晴天大学に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるのかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いておよそ何mの地点になるのかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何mかを求める必要はありません。

ア 晴天大学のグラフと新緑大学のグラフ

イ 晴天大学の式と新緑大学の式

内容・趣旨

\*学習指導要領における領域 第2学年 C 関数

\*趣旨 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

考察

・全国平均及び東京都の平均を大きく下回った。また、無解答率も全国平均及び東京都の平均を上回った。

・誤答の中でも、「グラフ」「交点」「方程式」等の数学的な用語に触れられずに間違える生徒の割合が全国平均及び東京都の平均を上回った。

・生徒質問紙「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」に対する肯定的な回答と、正の相関があった。

・「児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都教育委員会）」における、「他の人と相談して、考えを深めるようにしている。」に対する肯定的な回答と、正の相関があった。

・「児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都教育委員会）」における、「数学で学習する言葉や公式の意味を理解しようとしている」に対する肯定的な回答と、正の相関があった。

授業革新のポイント

・事象を捉え考察し表現する際には、何を明らかにしようとするかという目的意識をもち、事象をどのように捉え、数学の対象にするのかを明確にした上で数学的に表現した問題を見いだすことが求められる。その上で、問題を解決する際には、目的に応じて表、式、グラフを適切に選択し的確に表現することが大切である。

・生徒が既習の数学を活用して考えたり判断したりすることをよりよく行うことができるよう、言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりする学習活動を充実させる。

【授業革新例】

・新緑大学が晴天大学に追いつく地点を求める方法について、二つのグラフや式をどのように用いればよいかを検討する場面を設定する。

・追いつく地点は二つの直線のグラフの交点の  $y$  座標に表れることを確認し、「グラフの交点の  $y$  座標を読み取ればよい。」「二つの直線の式から連立方程式をつくり、それを解いて  $y$  の値を求めればよい。」などのように数学的に説明できるようにする。

・「交点の座標を読めば分かる。」のような十分でない説明を取り上げて吟味し、「二つの直線のグラフの交点から  $y$  座標を読めば分かる。」のようなより洗練された表現に高めさせていく。

## 4 各教科の結果の特徴

### (3) 中学校 英語

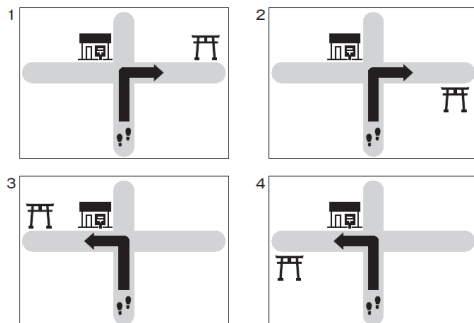
① 成果のあった問題 **正答率 板橋区 70.8% 東京都 70.8% 全国 64.4%**

【1(2)】 正答率が全国と比べて高い問題（東京都と同率）（全国から+6.4p）

無解答率 板橋区 0.1% 東京都 0.2% 全国 0.2%

#### 問題 【リスニング問題】

(2) <道案内>



(音声)

(2)

A: Excuse me. Can you tell me the way to the shrine?

B: Sure. Go straight and walk for about five minutes. When you see the post office, turn right. Keep walking, and the shrine is on your left.

A: I see. Thank you.

#### 内容・趣旨

\*学習指導要領における内容 聞くこと

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

ア 音声

ウ 語、連語及び慣用表現

エ 文、文構造及び文法事項

\*趣旨 情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる。

#### 考察

・正答率は、東京都と同等、全国を 6.4p と大きく上回った。この問題を含め、「聞くこと」に関する問題の正答率は比較的高く、全国の正答率を上回っている。

・生徒質問紙「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に肯定的な回答をした生徒の割合が高い学校で、本問題の正答率が高くなっている。

・『児童・生徒の学力向上を図るための調査』の【学習指導の工夫】に関する質問において、12(4)「授業では、他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っている。」に肯定的な回答をした児童の割合が高い学校で、本問題の正答率が高くなっている。

#### 授業革新のポイント

・情報を正確に聞き取るためには、音声や語彙、表現や文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションに活用できる技能を身に付けておくことが重要である。

・各学校で ICT を活用して「聞くこと」について学習に取り組んでおり、日常的な話題について、短い文を正確に聞き取ることができている傾向にある。コミュニケーションを行う場合、自分が置かれている状況や目的を理解し、それらに関連する語句や表現に着目して話したり聞いたりできるよう、指導していく。

#### 【授業革新例】

・key sentence を正しく理解し、生徒が話したり、書いたりする OUTPUT する活動や、英文を聞いたりする活動を充実させる。

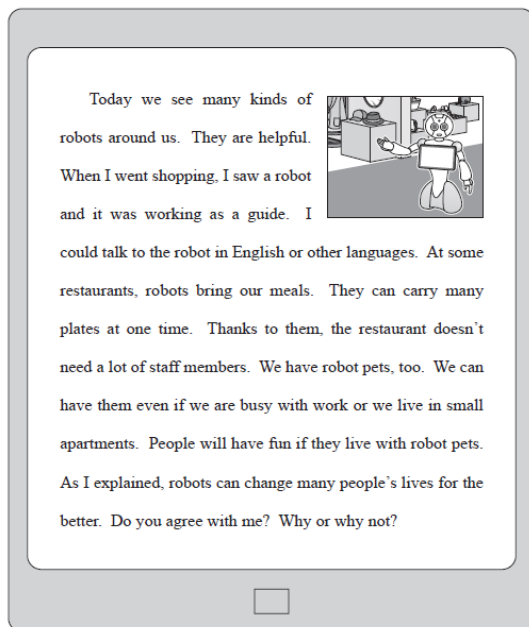
② 課題のあった問題 正答率 板橋区 19.0% 東京都 25.2% 全国 19.5%

【8 (2)】 正答率が都や全国の平均より低い問題（東京都から-6.2 p）（全国から-0.5 p）

無解答率 板橋区 28.4% 東京都 24.4% 全国 29.3%

問題

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。



(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

内容・趣旨

\*学習指導要領における内容 書くこと

ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

\*趣旨 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。

考察

- ・ 正答率は低く、東京都、全国ともに下回る結果であった。無解答率は 28.4% とすべての問題の中で最も高い。
- ・ (正答の条件) は、「① 書き手の意見に対する自分の考えを書いている。」ことと「② ①の理由を書いている。」ことの2点を踏まえる必要があるが、誤答の多くは、①を満たし、②を満たしていないものであった(26%)。書き手の意見に賛成や反対はできるが、その理由まで説明(表現)できる生徒が少ないということである。
- ・ この問題を含め、「書くこと」に関する問題の正答率は比較的低く、東京都の正答率を大きく下回っている問題が多い。

授業革新のポイント

- ・ 本問は、短い文章の要点を捉えて、書き手の意見に対する自分の考えを英語で書くことができるかを問う問題である。
- ・ 自分の意見を書く際に、自分がその考えに至った理由を、文の書き手の意見を踏まえて書くことに課題があることが考えられる。
- ・ 英文を正しく読み、それを基に自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を継続的・計画的に取り入れていく必要がある。

【授業革新例】

- ・ 毎時間の学習のふりかえる場面で考えを表出することを徹底したり、和文、英文問わず読み取った文章等について、自分の考えやその理由を表現する活動を取り入れる。
- ・ 英文においても、原因と結果を明確にする(推論)など、文章を正しく理解し、表現できるようにする。

### **Ⅲ 児童・生徒質問紙に関する調査結果**

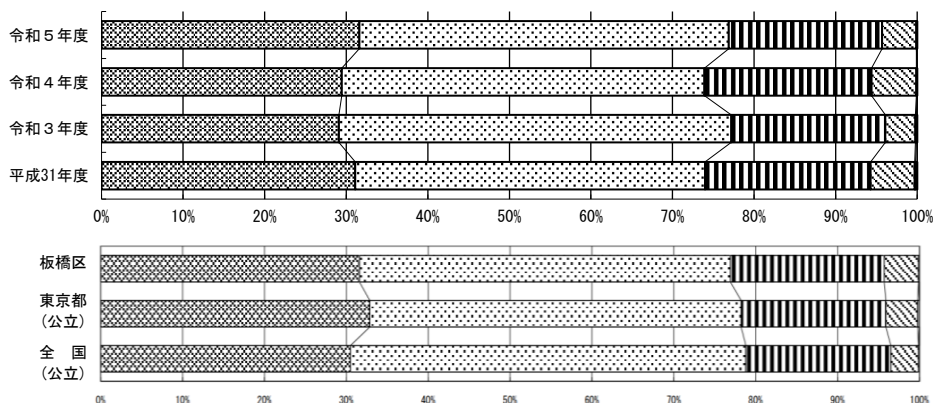
# 児童質問紙調査

## Ⅰ 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動

### (1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



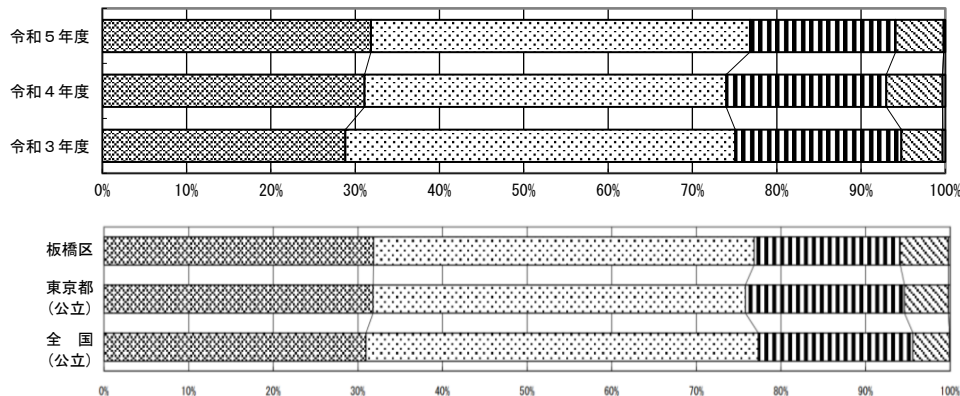
板橋区

#### 授業改善のポイント

授業や単元の初めに、児童が「何を」「どうやって」学ぶのか考える時間を設け、見通しをもって学習する。

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

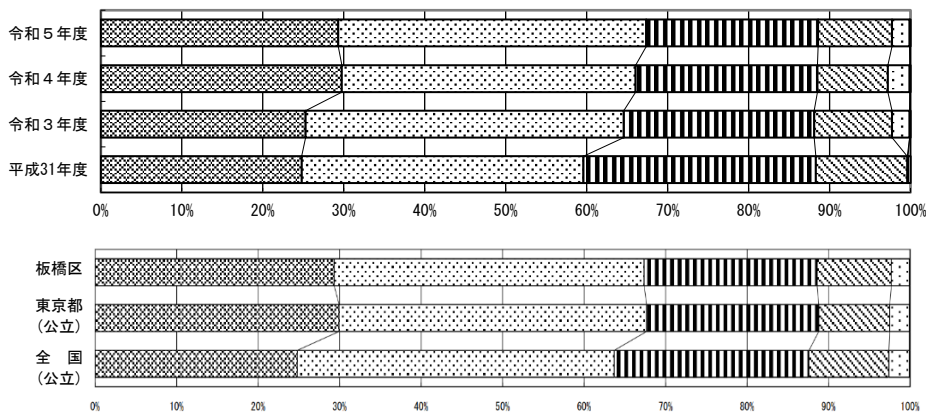
#### 授業改善のポイント

授業や単元の終わりに、「学んだこと」「学び方」「疑問に思ったこと」等を振り返る時間を設ける。



5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

- ☐ 1. 発表していた      ☐ 2. どちらかといえば、発表していた      ☐ 3. どちらかといえば、発表していなかった  
☐ 4. 発表していなかった      ☐ 5. 考えを発表する機会はなかった      ☐ その他  
☐ 無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



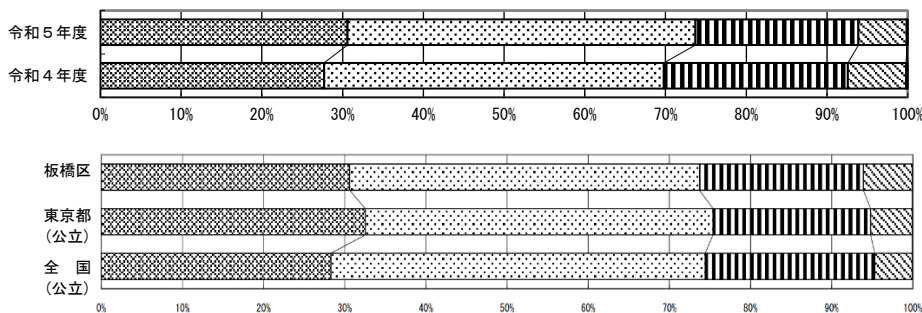
板橋区

### 授業改善のポイント

学んだことについて、根拠を明確にして説明する機会を設ける。自己評価、児童同士の相互評価等も取り入れ、工夫・改善を図る。

5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。

- ☐ 1. 当てはまる      ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる  
☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない      ☐ 4. 当てはまらない  
☐ その他      ☐ 無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

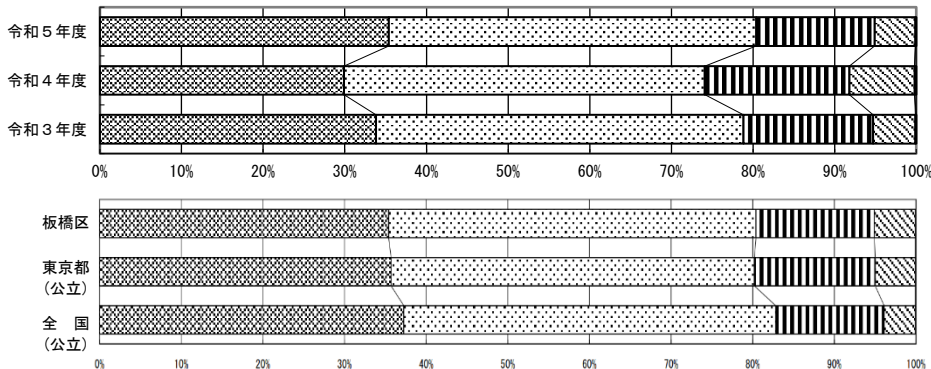
### 授業改善のポイント

単元配列表を活用し、各教科や総合的な学習の時間等を計画的に関連付けて、学んだことを他教科の学習で生かす機会を設ける。

## (2) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。

- ☐ 1. 当てはまる      ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる  
☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない      ☐ 4. 当てはまらない  
☐ その他      ☐ 無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



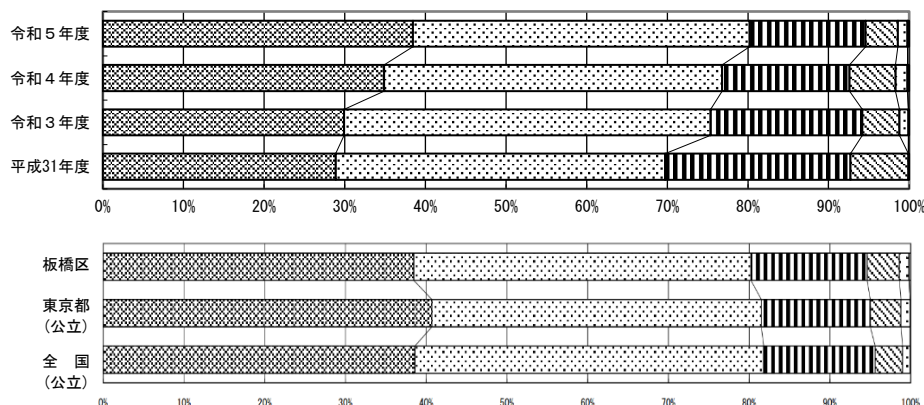
板橋区

### 授業改善のポイント

授業や単元の振り返りや、一人一台端末等を活用し、子どもたち一人ひとりの学習状況を把握する。

学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

- ☐ 1. 当てはまる  
☐ 2. どちらかといえば、当てはまる  
☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない  
☐ 4. 当てはまらない  
☐ 5. 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない  
☐ その他  
☐ 無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

### 授業改善のポイント

ペアワーク、グループワーク、ディベートなど、様々な話し合い活動を通して、多様な考えに触れる機会を設ける。

### 「板橋区授業スタンダード」の視点からの授業改善

**INPUT** 「学習課題・めあての設定」 …児童が学習計画を立てるなど、学習の見通しがもてるような工夫

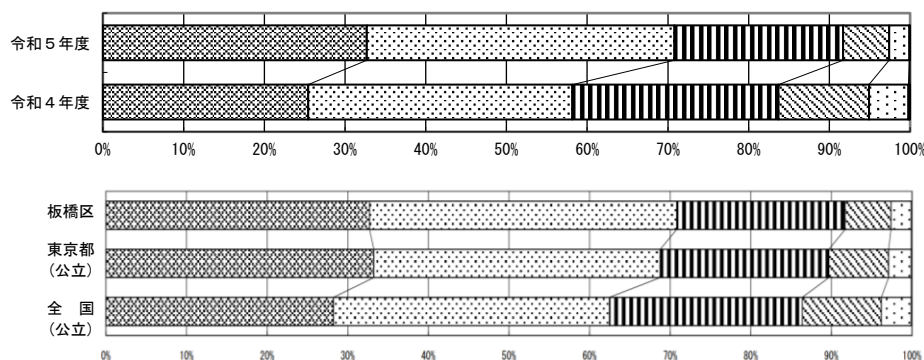
**THINK** 「自力解決」 …一人一台端末等を活用した「個に応じた指導」の工夫

**OUTPUT** 「集団解決」「まとめ・振り返り」 …集団解決で成果が上がっている、振り返りの充実が必要

## (3) いたばし学び支援プラン 2025 3つの柱 GIGA スクール構想

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか。

- ☐ 1. ほぼ毎日  
☐ 2. 週3回以上  
☐ 3. 週1回以上  
☐ 4. 月1回以上  
☐ 5. 月1回未満  
☐ その他  
☐ 無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



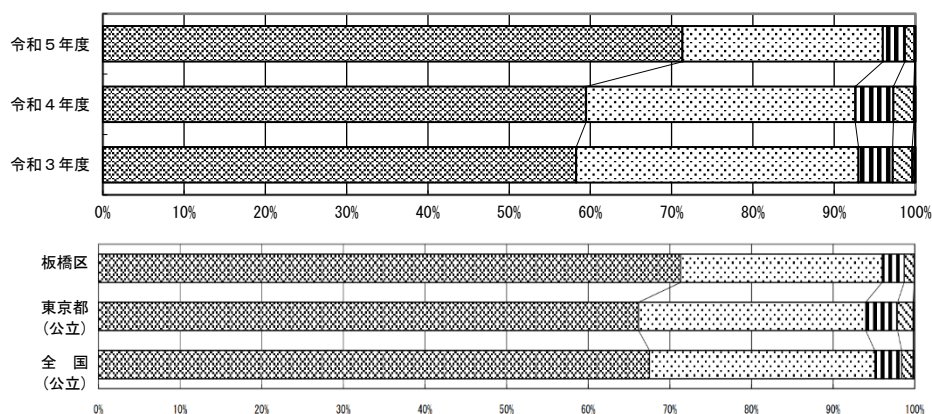
板橋区

「ほぼ毎日」と「週3回以上」で7割を超えた。日常的な活用が進んでいる。



学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

□1. 役に立つと思う □2. どちらかといえば、役に立つと思う □3. どちらかといえば、役に立たないと思う □4. 役に立たないと思う □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国

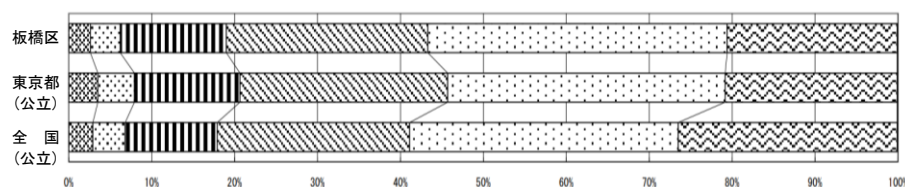


板橋区

肯定的な回答が9割以上である。ICT 機器を使うことが効果的な学習場面を見極めて、積極的に活用していきたい。

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか。(遊びなどの目的に使う時間は除きます。)

□1. 3 時間以上 □2. 2 時間以上、3 時間より少ない □3. 1 時間以上、2 時間より少ない  
□4. 30 分以上、1 時間より少ない □5. 30 分より少ない □6. 全く使っていない  
□その他 □無回答



経年変化

初

東京都



板橋区

全国



板橋区

30分以下が5割以上を占めている。ICT 機器を使った効果的な家庭学習等の方法を共有していく。

## スマートスクールプロジェクトの推進

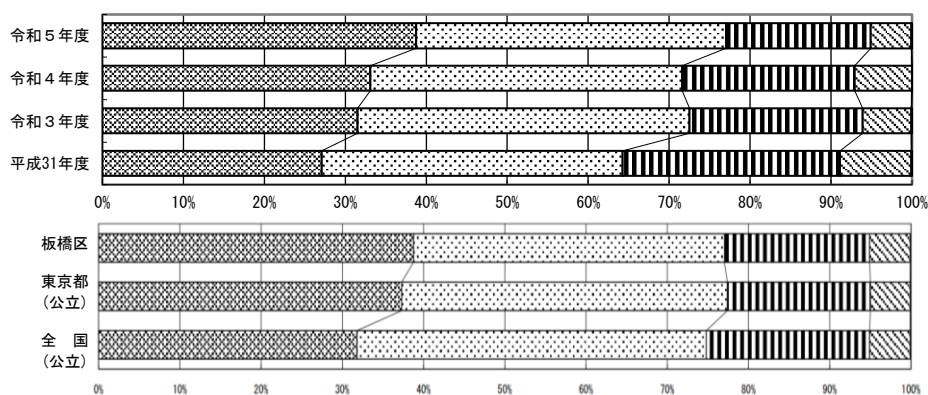
**日常的な活用** …前年度と比較して、「ほぼ毎日」「週3回以上」ICT 機器を使用するという回答が10ポイント以上増えている。一方で、学校間の差は拡大しているのが現状である。今後は、教員研修(キャラバン研修)や校内研修の充実により、一人一台端末等の活用推進が必要である。

**効果的な活用** …「学習の中で ICT 機器を使うことは役に立つ」という回答が10ポイント程度増えている。どのような場面で使うことが効果的なのか、好事例を区内で共有し、一人一台端末等の活用方法を工夫していくことが必要である。

## (4) 授業革新の要 総合的な学習の時間の充実

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 □無回答



**経年変化** ↗

**東京都** ⇄ **板橋区**

**全国** ⇄ **板橋区**

総合的な学習の時間において、探究のサイクルを取り入れた学習活動が積極的に行われている。

総合的な学習の時間において、「探究のサイクル」（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）をより一層充実させていく。

総合的な学習の時間の充実と、主体的な学び $0.53$ 、対話的な学び $0.50$ 、深い学び $0.51$ についての肯定的な回答には、相関関係がある。（ $\square$ は相関係数）

## (5) 板橋のiカリキュラム 郷土愛

今住んでいる地域の行事に参加している。

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。

**経年変化** ↘

**東京都** ⇄ **板橋区**

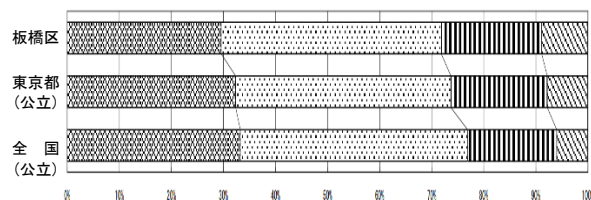
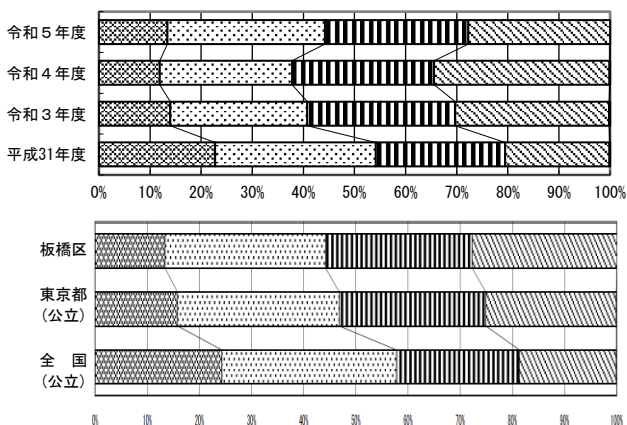
**全国** ⇄ **板橋区**

**経年変化** 初

**東京都** ⇄ **板橋区**

**全国** > **板橋区**

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 □無回答



「地域行事への参加」は、回復傾向がみられる。「地域や社会への貢献」については、総合的な学習の時間の充実を通して、実践力「具体的な Action」として育成していきたい。

## (6) 読書と新聞

授業以外に、1日当たりどれくらい読書をしますか。

経年変化



東京都



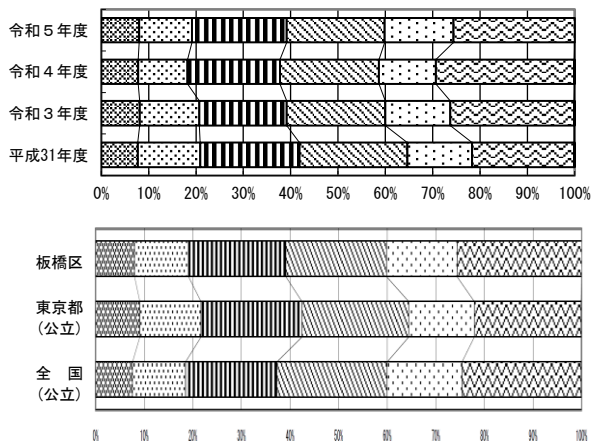
板橋区

全国



板橋区

- 1. 2時間以上
- 2. 1時間以上、2時間より少ない
- 3. 30分以上、1時間より少ない
- 4. 10分以上、30分より少ない
- 5. 10分より少ない
- 6. 全くしない
- その他
- 無回答



新聞を読んでいますか。

経年変化



東京都



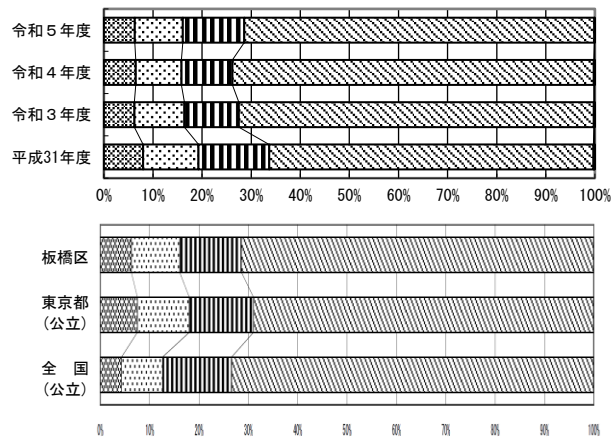
板橋区

全国



板橋区

- 1. ほぼ毎日読んでいる
- 2. 週に1～3回程度読んでいる
- 3. 月に1～3回程度読んでいる
- 4. ほとんど、または、全く読まない
- その他
- 無回答

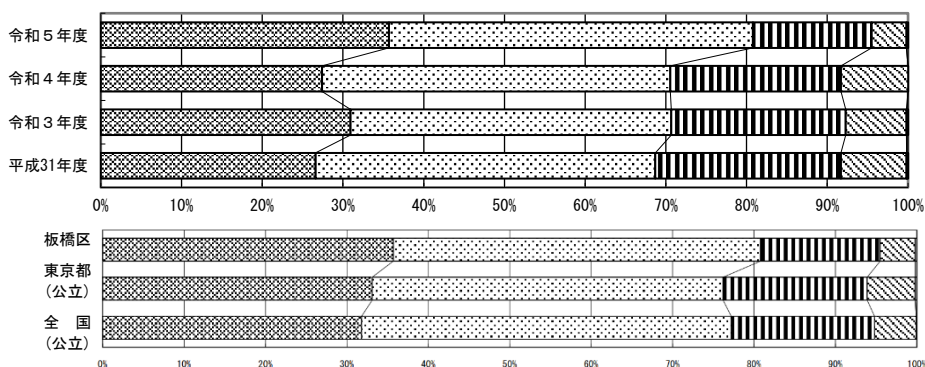


読書を「全くしない」児童の割合は25.6%、家にある本の冊数が「0から10冊」と答えた児童の割合は10.9%である。学校図書館や地域の図書館を活用し、児童の読書活動を支援する必要がある。

## (7) 学級活動

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国

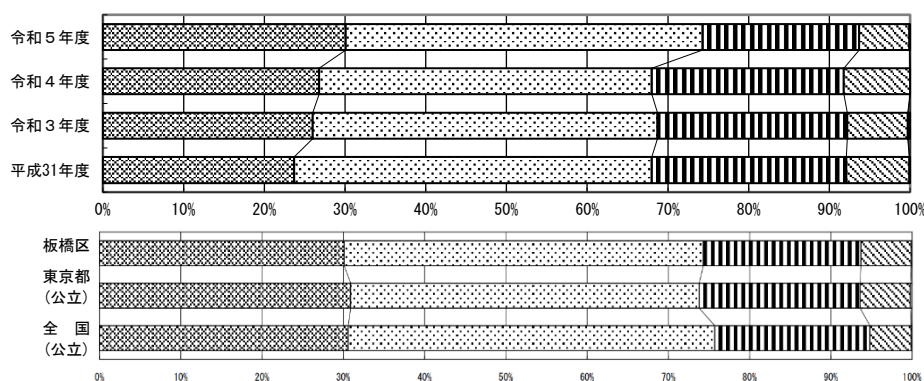


板橋区

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答が年々増加し、8割に達した。

学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答が年々増加し、7割を超えた。

学級での話し合い活動が充実している学校ほど、以下の質問で肯定的な回答が多い。(□は相関係数)

・自分にはよいところがある 0.64

・いじめは、どんな理由があってもいけない 0.51

・人の役に立ちたい 0.60

・学校が楽しい 0.62

・自分と違う意見について考えるのは楽しい 0.74

・幸せな気持ちになることがある 0.50

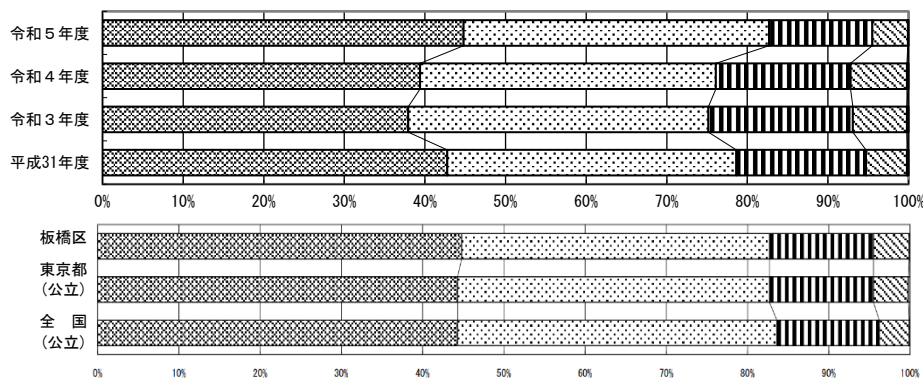
・将来の夢や目標を持っている 0.57

・地域や社会をよくするために何かしたい 0.69

## (8) 道徳

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答が回復し、8割を超えた。

道徳での話し合い活動が充実している学校ほど、以下の質問で肯定的な回答が多い。(□は相関係数)

・自分にはよいところがある 0.50

・いじめは、どんな理由があってもいけない 0.54

・人の役に立ちたい 0.58

・学校が楽しい 0.64

・自分と違う意見について考えるのは楽しい 0.67

・幸せな気持ちになることがある 0.58

## (9) ウェルビーイング等

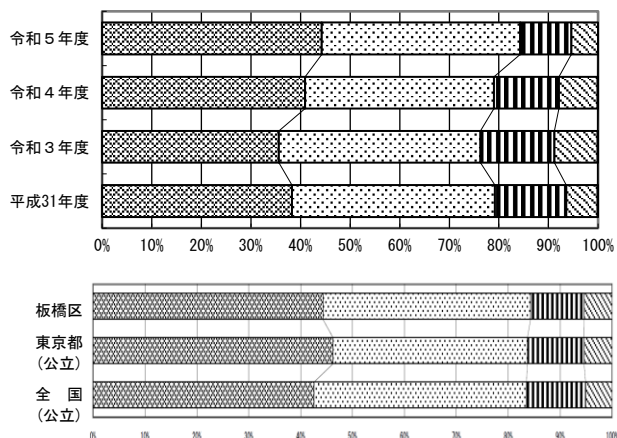
自分には、よいところがある。

経年変化 ↗

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 □無回答

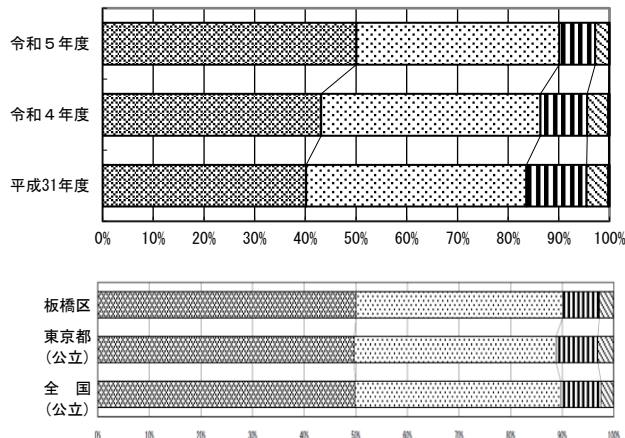


先生は、あなたのよいところを認めてくれている。

経年変化 ↗

東京都 ≡ 板橋区

全国 > 板橋区



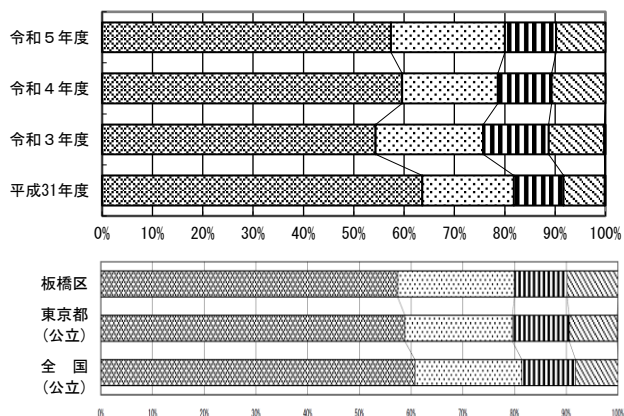
将来の夢や目標を持っている。

経年変化 →

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 □無回答

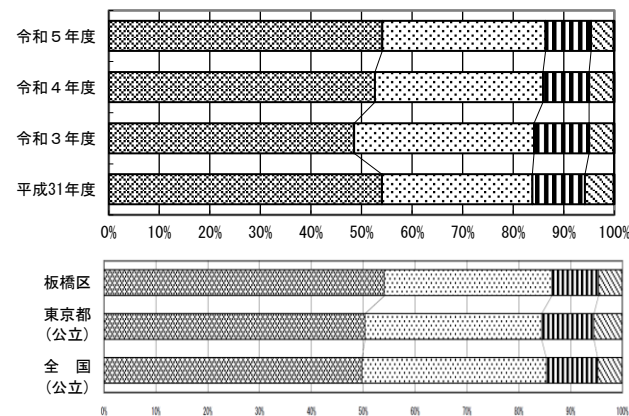


学校に行くのは楽しいと思う。

経年変化 →

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区





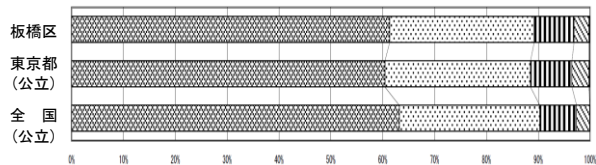
友達関係に満足している。

経年変化 初

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答



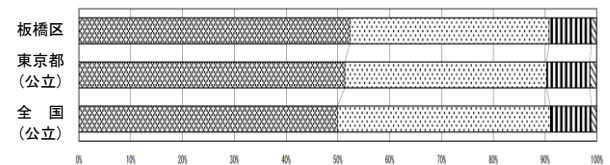
普段の生活の中で、幸せな気持ちになること。

経年変化 初

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

- 1. よくある
- 2. ときどきある
- 3. あまりない
- 4. 全くない
- その他
- 無回答



○「先生がよいところを認めてくれる」と「自分にはよいところがある」には相関関係がある。 [0.42]

○自分自身や学校、友だち関係等について、8割以上の児童が肯定的な回答をしている一方で、それぞれの質問項目で、9.1～15.7%の児童が「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えている。欠席日数やいじめアンケート、普段の生活の様子等から総合的に判断し、個別の支援が必要か判断する必要がある。

## ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。（「教育振興基本計画」令和5年6月16日閣議決定）

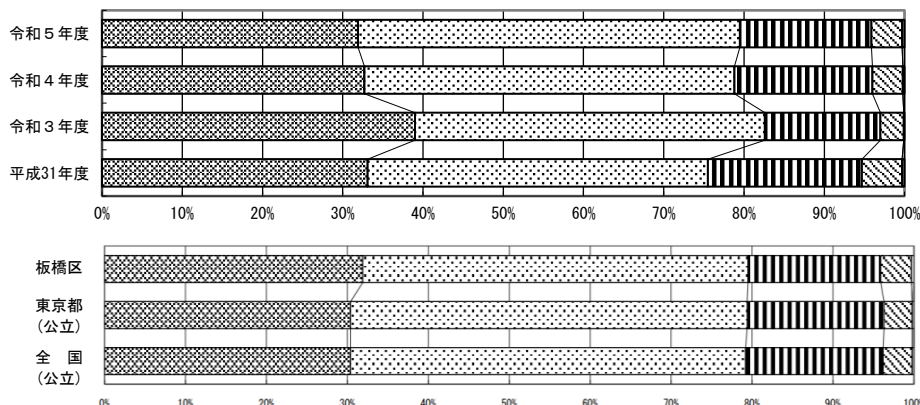
## 生徒紙調査

### I 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動

#### (1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化

→

東京都

≡

板橋区

全国

≡

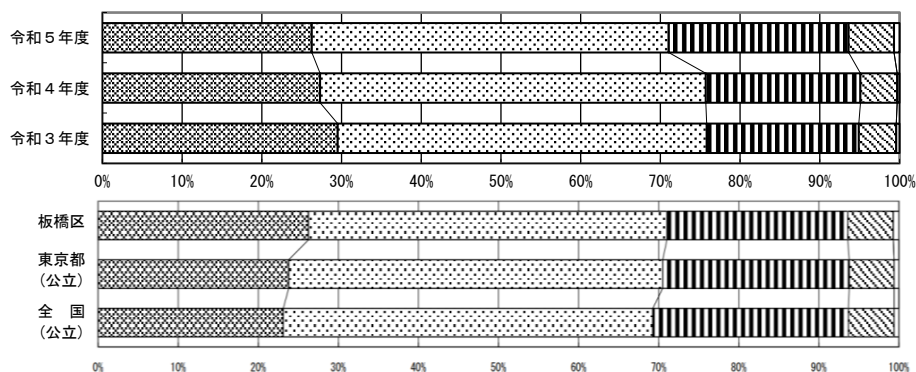
板橋区

#### 授業改善のポイント

授業や単元の初めに、生徒が学習課題や学習計画について考える時間を設け、見通しをもって学習する。

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化

→

東京都

≡

板橋区

全国

<

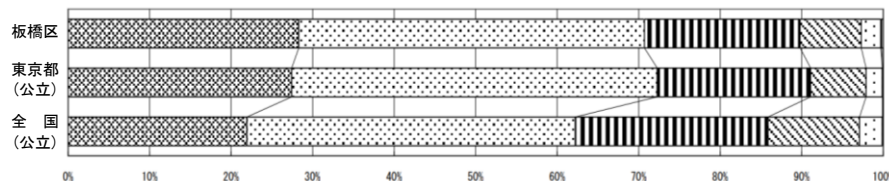
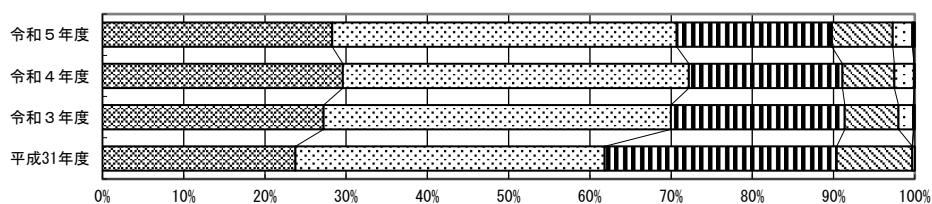
板橋区

#### 授業改善のポイント

授業や単元の終わりに、学習内容、学習方法、疑問点等を振り返る時間を設ける。

1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

- ☐ 1. 発表していた      ☐ 2. どちらかといえば、発表していた      ☐ 3. どちらかといえば、発表していなかった  
☐ 4. 発表していなかった      ☐ 5. 考えを発表する機会はなかった      ☐ その他  
☐ 無回答



経年変化 →

東京都 ≡ 板橋区

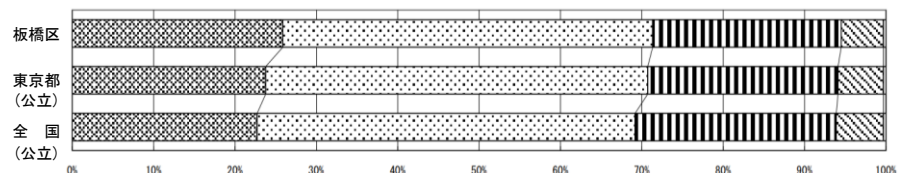
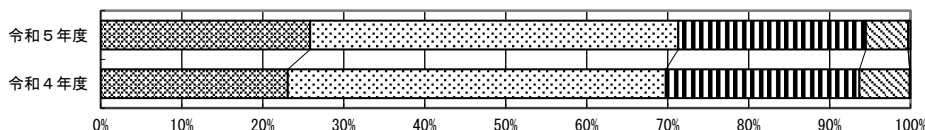
全国 ≡ 板橋区

#### 授業改善のポイント

学んだことについて、根拠を明確にして説明する機会を設ける。自己評価、児童同士の相互評価等も取り入れ、工夫・改善を図る。

1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。

- ☐ 1. 当てはまる      ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる  
☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない      ☐ 4. 当てはまらない  
☐ その他      ☐ 無回答



経年変化 →

東京都 ≡ 板橋区

全国 < 板橋区

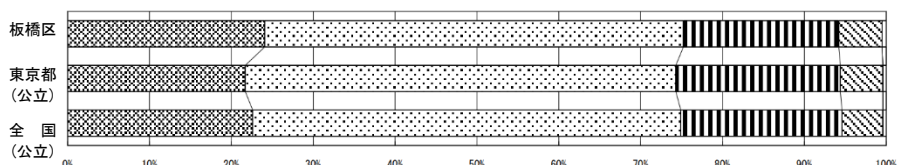
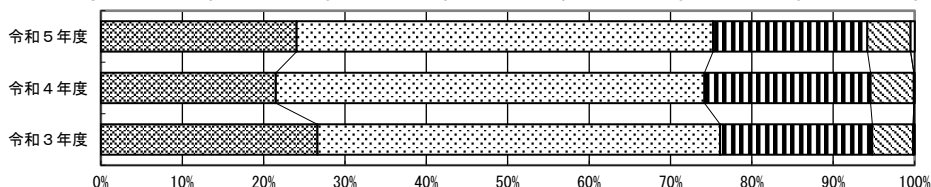
#### 授業改善のポイント

単元配列表を活用し、各教科や総合的な学習の時間等を計画的に関連付けて、学んだことを他教科の学習で生かす機会を設ける。

## (2) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

1、2年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。

- ☐ 1. 当てはまる      ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる  
☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない      ☐ 4. 当てはまらない  
☐ その他      ☐ 無回答



経年変化 →

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

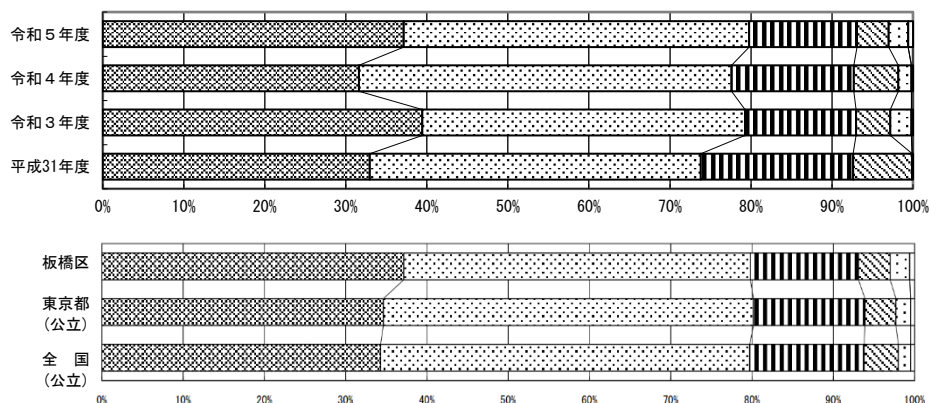
#### 授業改善のポイント

授業や単元の振り返りや、一人一台端末等を活用し、子どもたち一人ひとりの学習状況を把握する。



学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

- ☐ 1. 当てはまる  
☐ 2. どちらかといえば、当てはまる  
☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない  
☐ 4. 当てはまらない  
☐ 5. 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない  
☐ その他  
☐ 無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

### 授業改善のポイント

ペアワーク、グループワーク、ディベートなど、様々な話し合い活動を通して、多様な考えに触れる機会を設ける。

### 「板橋区授業スタンダード」の視点からの授業改善

**INPUT** 「学習課題・めあての設定」 …生徒が学習計画を立てるなど、学習の見通しがもてるような工夫

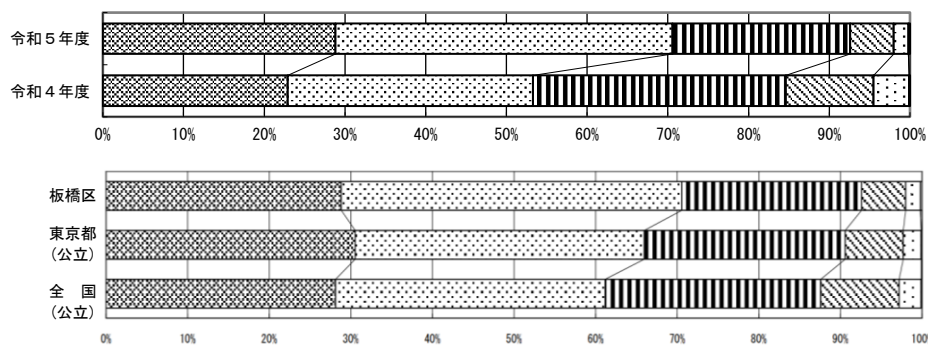
**THINK** 「自力解決」 …一人一台端末等を活用した「個に応じた指導」の工夫

**OUTPUT** 「集団解決」「まとめ・振り返り」 …集団解決、振り返りの充実が必要

## (3) いたばし学び支援プラン 2025 3つの柱 GIGA スクール構想

1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか。

- ☐ 1. ほぼ毎日  
☐ 2. 週3回以上  
☐ 3. 週1回以上  
☐ 4. 月1回以上  
☐ 5. 月1回未満  
☐ その他  
☐ 無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国

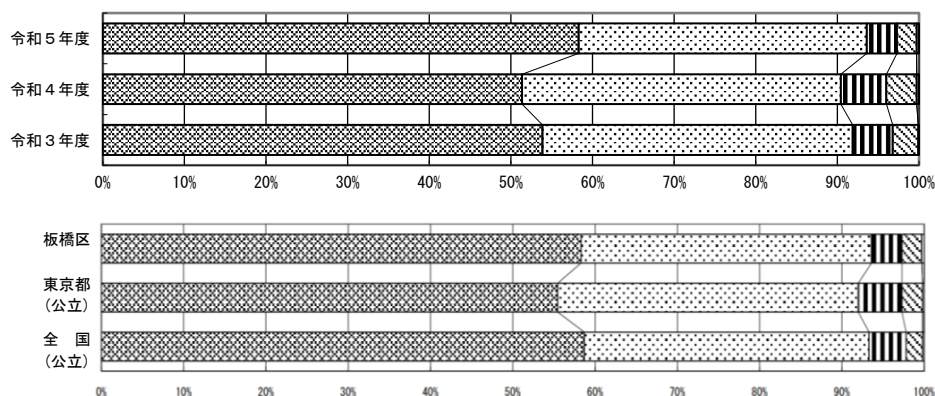


板橋区

「ほぼ毎日」と「週3回以上」で約7割である。日常的な活用が進んでいる。

学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

□1. 役に立つと思う □2. どちらかといえば、役に立つと思う □3. どちらかといえば、役に立たないと思う □4. 役に立たないと思う □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国

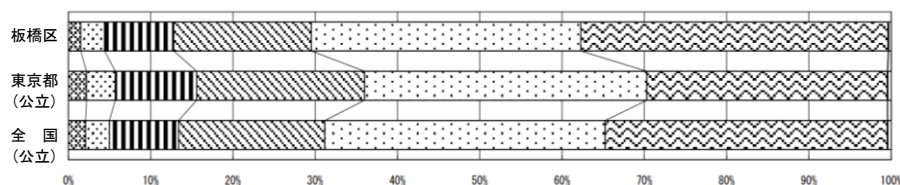


板橋区

肯定的な回答が9割以上である。ICT 機器を使うことが効果的な学習場面を見極めて、積極的に活用していきたい。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか。（遊びなどの目的に使う時間は除きます。）

□1. 3時間以上 □2. 2時間以上、3時間より少ない □3. 1時間以上、2時間より少ない  
□4. 30分以上、1時間より少ない □5. 30分より少ない □6. 全く使っていない  
□その他 □無回答



経年変化

初

東京都



板橋区

全国



板橋区

30分以下が約7割を占めている。ICT 機器を使った効果的な家庭学習等の方法を共有していく。

## スマートスクールプロジェクトの推進

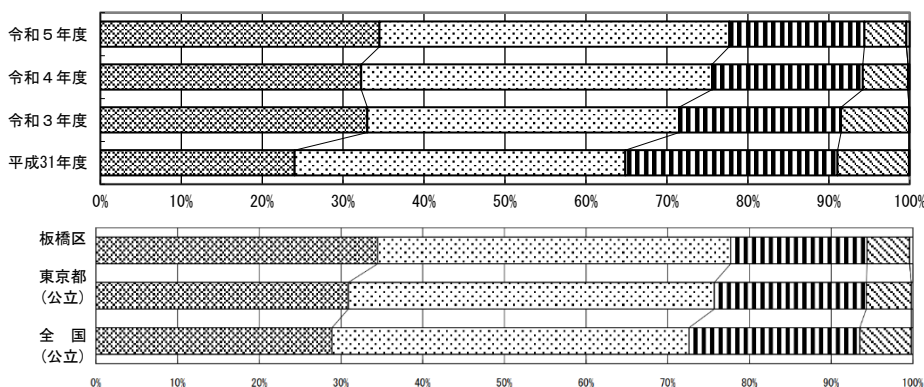
**日常的な活用** …前年度と比較して、「ほぼ毎日」「週3回以上」ICT 機器を使用するという回答が15ポイント以上増えている。一方で、学校間の差は拡大しているのが現状である。今後は、教員研修（キャラバン研修）や校内研修の充実により、一人一台端末等の活用推進が必要である。

**効果的な活用** …「学習の中で ICT 機器を使うことは役に立つ」という回答が5ポイント程度増えている。どのような場面で使うことが効果的なのか、好事例を区内で共有し、一人一台端末等の活用方法を工夫していくことが必要である。

## （４）授業革新の要 総合的な学習の時間の充実

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

総合的な学習の時間において、探究のサイクルを取り入れた学習活動が積極的に行われている。

総合的な学習の時間において、「探究のサイクル」（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）をより一層充実させていく。

総合的な学習の時間の充実と、主体的な学び  $0.48$ 、深い学び  $0.47$  についての肯定的な回答には、相関関係がある。（ $\square$ は相関係数）

## （５）板橋のiカリキュラム 郷土愛

今住んでいる地域の行事に参加している。

地域や社会を良くするために何かしてみたいと思う。

経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

経年変化

初

東京都



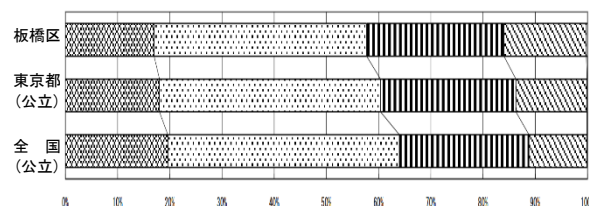
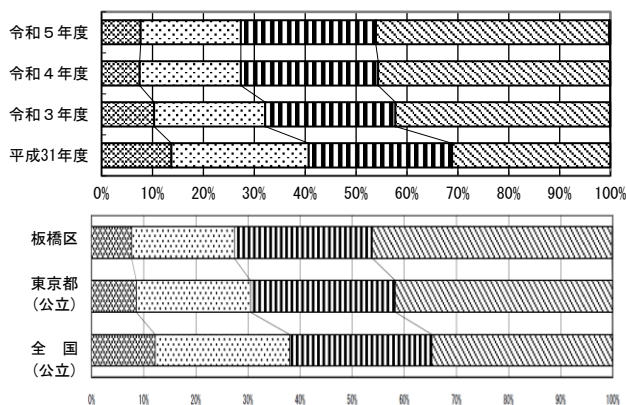
板橋区

全国



板橋区

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 □無回答



「地域行事への参加」は、低下傾向がみられる。「地域や社会への貢献」については、総合的な学習の時間の充実を通して、実践力「具体的な Action」として育成していきたい。

## (6) 読書と新聞

授業以外に、1日当たりどれくらい読書をしますか。

経年変化



東京都



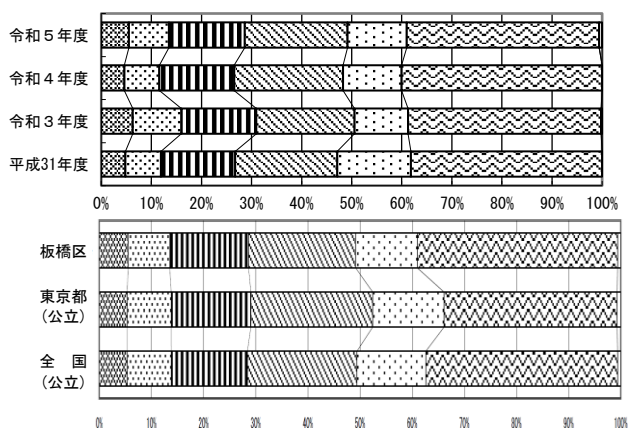
板橋区

全国



板橋区

- 1. 2時間以上
- 2. 1時間以上、2時間より少ない
- 3. 30分以上、1時間より少ない
- 4. 10分以上、30分より少ない
- 5. 10分より少ない
- 6. 全くしない
- その他
- 無回答



新聞を読んでいますか。

経年変化



東京都



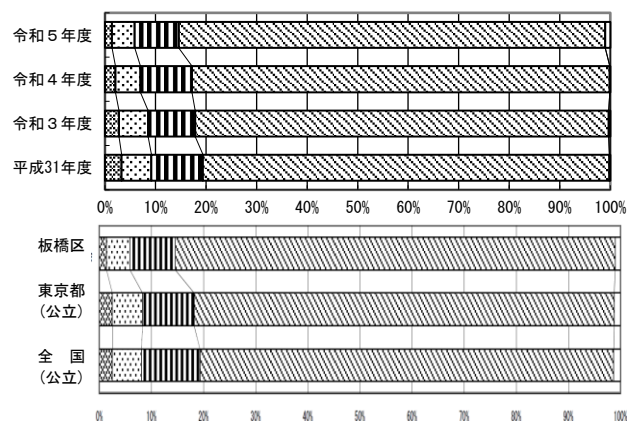
板橋区

全国



板橋区

- 1. ほぼ毎日読んでいる
- 2. 週に1～3回程度読んでいる
- 3. 月に1～3回程度読んでいる
- 4. ほとんど、または、全く読まない
- その他
- 無回答

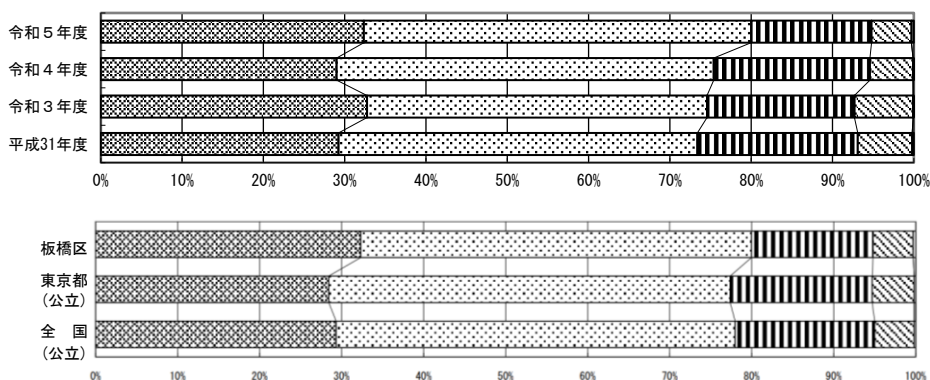


読書を「全くしない」生徒の割合は38.4%、家にある本の冊数が「0から10冊」と答えた生徒の割合は13.9%である。学校図書館や地域の図書館を活用し、生徒の読書活動を支援する必要がある。

## (7) 学級活動

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない
- その他
- 無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国

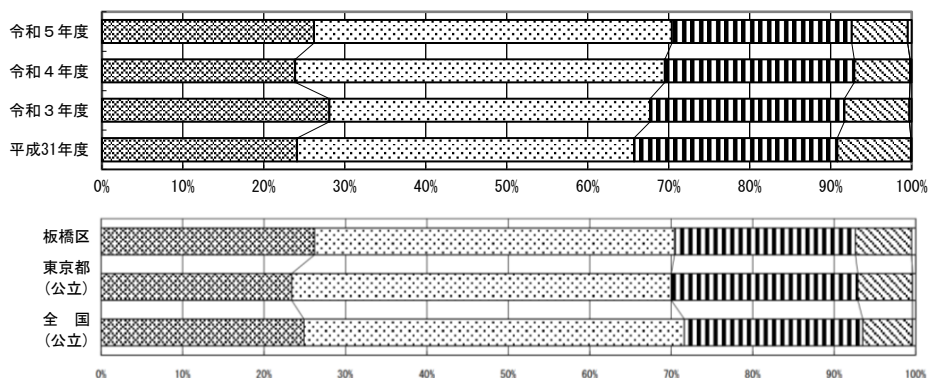


板橋区

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答が年々増加し、8割に達した。

学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答が年々増加し、7割を超えた。

学級での話し合い活動が充実している学校ほど、以下の質問で肯定的な回答が多い。(□は相関係数)

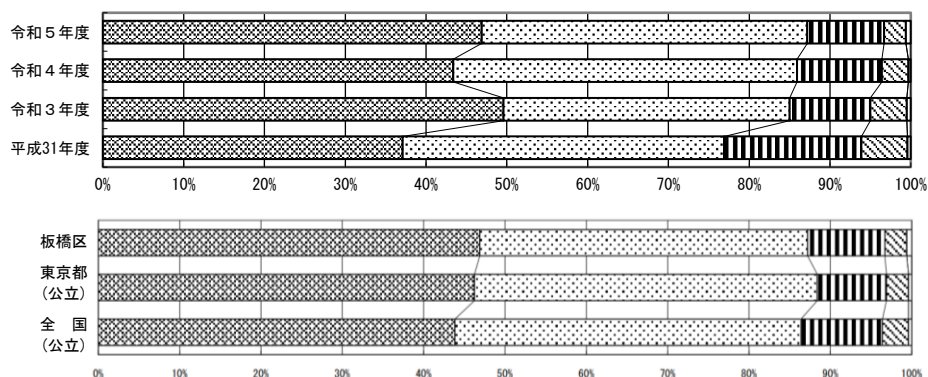
- ・困っている人を進んで助けている 0.67
- ・人の役に立ちたい 0.54
- ・学校が楽しい 0.68
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しい 0.65

- ・幸せな気持ちになることがある 0.57
- ・将来の夢や目標を持っている 0.51
- ・地域や社会をよくするために何かしたい 0.77

## (8) 道徳

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



経年変化



東京都



板橋区

全国



板橋区

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた肯定的な回答が85%を超えた。

道徳での話し合い活動が充実している学校ほど、以下の質問で肯定的な回答が多い。(□は相関係数)

- ・自分にはよいところがある 0.36
- ・困っている人を進んで助けている 0.38
- ・人の役に立ちたい 0.50

- ・自分と違う意見について考えるのは楽しい 0.43
- ・幸せな気持ちになることがある 0.32



## (9) ウェルビーイング等

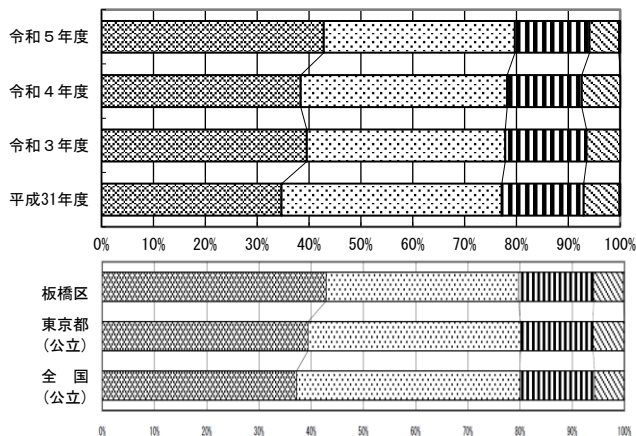
自分には、よいところがある。

経年変化 →

東京都 ⇄ 板橋区

全国 ⇄ 板橋区

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 □無回答

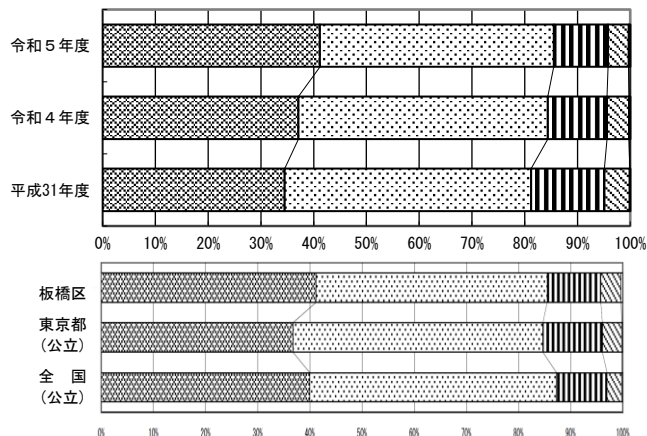


先生は、あなたのよいところを認めてくれている。

経年変化 →

東京都 ⇄ 板橋区

全国 ⇄ 板橋区



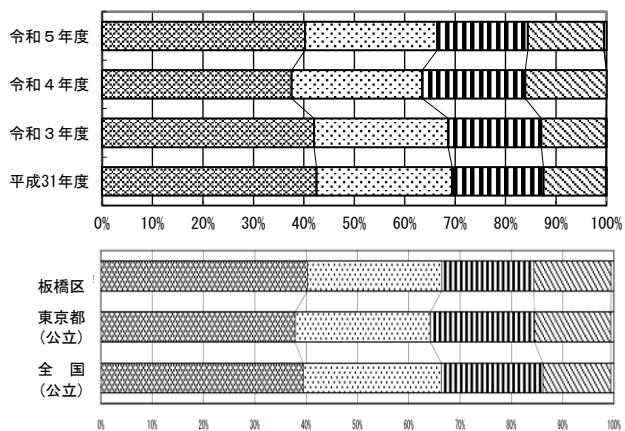
将来の夢や目標を持っている。

経年変化 →

東京都 ⇄ 板橋区

全国 ⇄ 板橋区

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない ■その他 □無回答

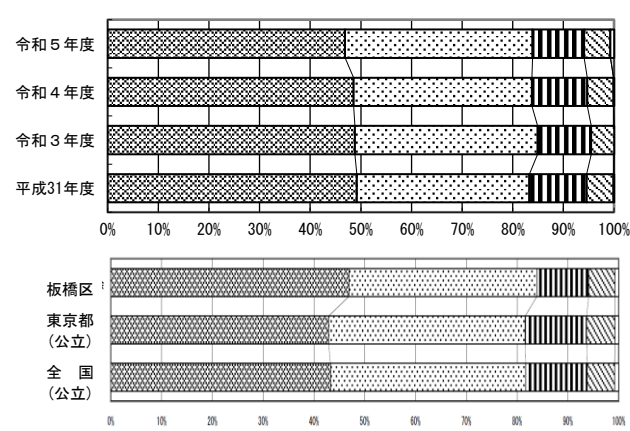


学校に行くのは楽しいと思う。

経年変化 →

東京都 ⇄ 板橋区

全国 ⇄ 板橋区



友達関係に満足している。

経年変化 初

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

- ☐ 1. 当てはまる
- ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる
- ☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない
- ☐ 4. 当てはまらない
- ☐ その他
- ☐ 無回答

普段の生活の中で、幸せな気持ちになること。

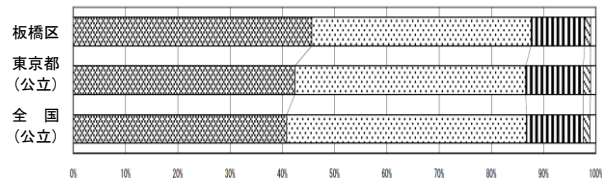
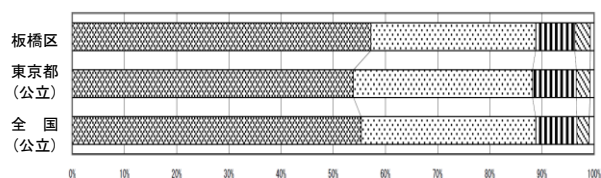
経年変化 初

東京都 ≡ 板橋区

全国 ≡ 板橋区

- ☐ 1. よくある
- ☐ 2. ときどきある
- ☐ 3. あまりない
- ☐ 4. 全くない
- ☐ その他
- ☐ 無回答

☐ 1. 当てはまる ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる ☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない ☐ 4. 当てはまらない ☐ その他 ☐ 無回答



○中学生では、「先生がよいところを認めてくれる」と「自分にはよいところがある」には相関関係がみられなかった。

○自分自身や学校、友だち関係等について、8割以上の児童が肯定的な回答をしている一方で、それぞれの質問項目で、10.5～20.1%の生徒が「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と答えている。欠席日数やいじめアンケート、普段の生活の様子等から総合的に判断し、個別の支援が必要か判断する必要がある。

## ウェルビーイング

身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。（「教育振興基本計画」令和5年6月16日閣議決定）

## **IV 学校質問紙に関する調査結果**



Ⅳ 学校質問紙に関する調査結果（全国との比較からみた分析・経年変化）

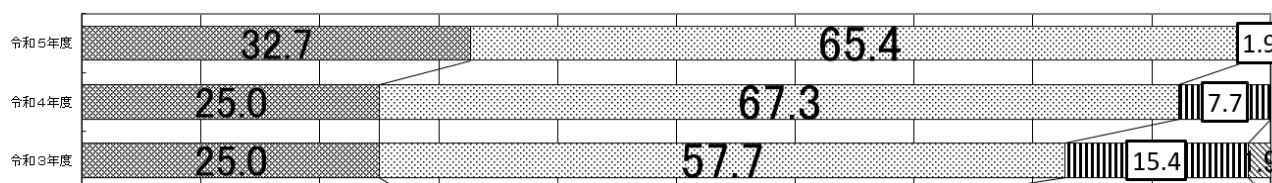
1 小学校

学習指導

(33) 前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する等の学習活動を取り入れましたか。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	32.7	65.4	1.9	0.0
	都	33.6	59.7	6.5	0.1
	国	30.3	60.1	9.5	0.0

【（３３）の質問における板橋区の経年変化】

■1.よく行った      ■2.どちらかといえば、行った      ■3.あまり行わなかった      ■4.全く行わなかった



(26) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。（％）		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない
	区	21.2	63.5	15.4	0.0
	都	23.1	66.4	10.1	0.3
	国	21.4	67.5	10.8	0.3

(27) 授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている。（％）		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない
	区	15.4	63.5	21.2	0.0
	都	16.4	66.1	17.1	0.4
	国	13.2	65.8	20.6	0.3

一人一台端末等の活用について

(55) 前年度までに、一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、授業でどの程度活用しましたか。		ほぼ毎日	週３回以上	週１回以上	月１回以上	月１回未満
	区	80.8	17.3	1.9	0.0	0.0
	都	74.5	20.5	4.8	0.2	0.0
	国	65.2	25.4	8.4	0.9	0.1

(59) 児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか。		ほぼ毎日	週３回以上	週１回以上	月１回以上	月１回未満
	区	34.6	38.5	13.5	7.7	5.8
	都	24.9	30.0	26.9	12.2	5.8
	国	16.4	23.6	28.5	18.0	13.3

- ・（３３）の質問の回答状況を確認すると、板橋区授業スタンダードが年々徹底されていることが推察される。
- ・一方で、（２６）や（２７）の質問に対して否定的な回答をした小学校の割合が全国平均よりも高い。
- ・一人一台端末を活用した授業はある程度実施できている、と考えられる。

今後に向けたポイント

- ①教師が教え込む授業ではなく、児童が主体的な学びを実現できるように、支援が必要な児童に配慮する。
- ②一人一台端末を活用することだけを目的にせず、一人一台端末を効果的に活用した協働的な学びをめざす。

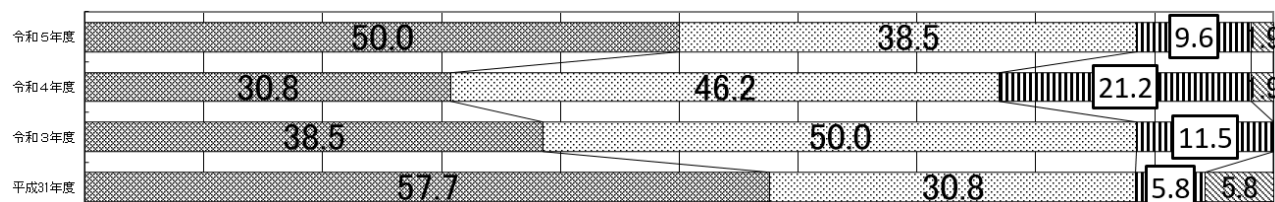
# 学校質問紙に関する調査結果（小学校）

## 小中一貫教育・コミュニティ・スクールについて

		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
(68) 前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。（％）	区	50.0	38.5	9.6	1.9
	都	22.2	48.6	20.8	8.3
	国	19.0	39.2	26.1	15.6

【（６８）の質問における板橋区の経年変化】

□1.よく行った □2.どちらかといえば、行った □3.あまり行わなかった □4.全く行わなかった



(74) コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。（％）		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	取組を行わなかった
	区	46.2	46.2	7.7	0.0	0.0
	都	29.3	56.5	7.2	0.9	6.2
	国	27.3	58.8	5.7	0.6	7.6

- ・（６８）の質問の回答状況を確認すると、コロナ禍の影響が徐々に薄まり、学びのエリアにおける研修が実施できる学校が多くなっていると推察される。また、全国や東京都の平均より高い割合で、小中一貫教育が実施されている。
- ・コミュニティ・スクール等の活動により、学校と地域や保護者の相互理解が進んでいると考えられる。

### 今後に向けたポイント

- ①中学校と共有した目的をもって学びのエリア研修を実施し、目的をもったコミュニティ・スクールを継続する。
- ②学校と地域や保護者の相互理解が深められるように、継続してコミュニティ・スクールについて教員の意識を高める。

## カリキュラム・マネジメントについて

(18) 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	44.2	53.8	1.9	0.0
	都	44.9	52.2	2.8	0.0
	国	42.3	54.0	3.7	0.0

(19) 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る PDCA サイクルを確立している。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	46.2	51.9	1.9	0.0
	都	42.3	54.6	3.1	0.0
	国	39.2	57.0	3.7	0.0

- ・（１８）の質問に対して、同じ質問が出題された平成３１年度と同等の割合で各項目回答された。
- ・（１９）の質問に対して、よく行ったという学校の割合が昨年度より２１．２ｐ増加した。

### 今後に向けたポイント

引き続き、調査等の根拠を明確にしたうえでの教育課程を編成し、各教科等の教育内容を相互に捉えたうえで、PDCA サイクルを確立し、教育目標に根差したカリキュラム・マネジメントを実施する。

# IV 学校質問紙に関する調査結果（全国との比較からみた分析・経年変化）

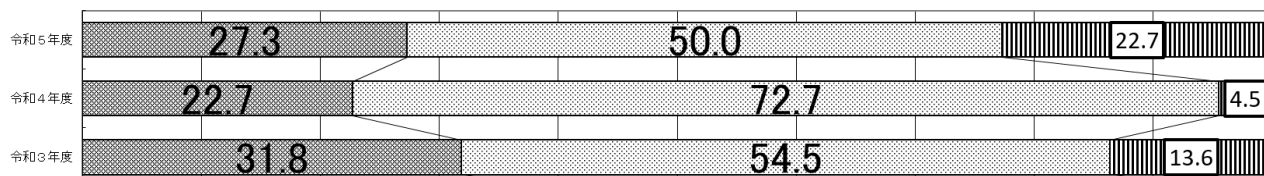
## 1 中学校

### 学習指導

(33) 前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する等の学習活動を取り入れましたか。（％）		よく行った	どちらかといえ、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	27.3	50.0	22.7	0.0
	都	26.2	62.6	11.1	0.2
	国	25.3	61.7	12.8	0.2

【（３３）の質問における板橋区の経年変化】

■1.よく行った      ■2.どちらかといえ、行った      ■3.あまり行わなかった      ■4.全く行わなかった



(26) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。（％）		そう思う	どちらかといえ、そう思う	どちらかといえ、そう思わない	そう思わない
	区	9.1	68.2	22.7	0.0
	都	21.0	68.6	10.4	0.0
	国	19.2	68.8	11.8	0.2

(27) 授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている。（％）		そう思う	どちらかといえ、そう思う	どちらかといえ、そう思わない	そう思わない
	区	9.1	63.6	27.3	0.0
	都	21.2	68.6	10.1	0.0
	国	14.6	67.0	18.0	0.3

### 一人一台端末等の活用について

(63) 前年度までに、一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、授業でどの程度活用しましたか。		ほぼ毎日	週３回以上	週１回以上	月１回以上	月１回未満
	区	77.3	18.2	4.5	0.0	0.0
	都	67.3	21.2	10.1	0.9	0.5
	国	62.6	24.1	11.0	1.9	0.3

(67) 生徒同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか。		ほぼ毎日	週３回以上	週１回以上	月１回以上	月１回未満
	区	27.3	31.8	31.8	9.1	0.0
	都	15.3	21.8	30.5	16.6	15.5
	国	12.4	21.3	28.5	19.3	18.3

- ・（３３）の質問に対して、「よく行った」と回答した学校の割合が増えているものの、「あまり行わなかった」と回答した学校の割合も増えている。板橋区授業スタンダードの徹底については二極化が起こっていると推察される。
- ・（２６）や（２７）の質問に対して、否定的な回答をした中学校の割合が全国平均や東京都平均よりも高い。
- ・一人一台端末を活用した授業はある程度実施できている、と考えられる。

#### 今後に向けたポイント

- ①生徒自ら課題を設定する等の学習の流れを示し、板橋区授業スタンダードを徹底するとともに効果を実感する。
- ②一人一台端末を効果的に活用し、自ら考え、他者と工夫して話し合うことが苦手な生徒にも支援する。

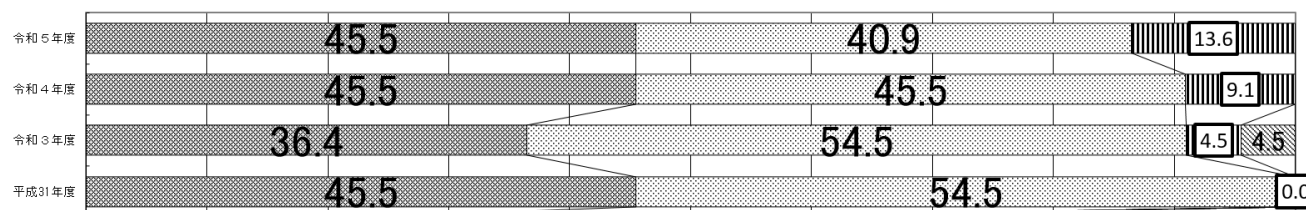
## 学校質問紙に関する調査結果（中学校）

### 小中一貫教育・コミュニティ・スクールについて

(76)前年度までに、近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	45.5	40.9	13.6	0.0
	都	34.3	41.4	17.1	7.3
	国	27.6	39.7	20.5	12.1

【（７６）の質問における板橋区の経年変化】

■1.よく行った      ■2.どちらかといえば、行った      ■3.あまり行わなかった      ■4.全く行わなかった



(82)コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。（％）		そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	取組を行わなかった
	区	22.7	63.6	13.6	0.0	0.0
	都	19.0	59.4	11.8	1.6	8.2
	国	19.4	59.9	8.2	1.4	11.1

・全国や東京都の平均より高い割合で、小中一貫教育が実施されているものの、（７６）の質問に対して、「あまり行わなかった」と回答した中学校の割合が増えている。

・コミュニティ・スクール等の活動により、学校と地域や保護者の相互理解が進んでいると考えられる。

#### 今後に向けたポイント

①学びのエリア研修において、小学校と目的を共有し、授業研究の内容や回数、意義について確認する。

②学校と地域や保護者の相互理解が深められるように、継続してコミュニティ・スクールについて教員の意識を高める。

### カリキュラム・マネジメントについて

(18)教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	45.5	54.5	0.0	0.0
	都	39.0	55.8	5.2	0.0
	国	39.3	54.8	5.7	0.1

(19)生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図るPDCAサイクルを確立している。（％）		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行わなかった	全く行わなかった
	区	45.5	50.0	4.5	0.0
	都	35.7	60.2	3.8	0.2
	国	35.4	59.8	4.7	0.0

・（１８）の質問に対して、同じ質問が出題された平成３１年度とより肯定的な回答をした中学校の割合が増加した。

・（１９）の質問に対して、肯定的な回答をした中学校の割合が昨年度より９．１p増加した。

#### 今後に向けたポイント

引き続き、調査等の根拠を明確にしたうえでの教育課程を編成し、各教科等の教育内容を相互に捉えたうえで、PDCAサイクルを確立し、教育目標に根差したカリキュラム・マネジメントを実施する。

## V まとめ

## V まとめ

本年度は3年に一度の英語の調査がある全国学力・学習状況調査となった。今回も、昨年度に引き続き、文章を読み、自分で考え、文章で解答するという特徴が色濃く反映されている。また、一部、文部科学省のCBTシステムであるMEXCBTも初めて活用された。

板橋区では、平成31年度から「読み解く力」を育成する取組を始め本年度で5年目になる。「板橋区授業スタンダード」「読み解く力」の2点を大きな学力向上の柱として取り組むことで、本年度は、中学校の正答率は全国と同等となり、小学校国語の正答率については東京都と同等まで向上した。今年度は、正答率が高い問題や低い問題、児童・生徒質問紙から「授業革新のポイント」として、日々の授業に取り入れることのできる具体的な取組について取り上げた。

これまでの本区及び各学校の学力向上に関する取組を踏まえつつ、本冊子を基に各学校の現状を把握し、授業革新に必要な課題等を明らかにして全教員で情報共有し、課題の解決を図っていただきたいと考えている。また、区教育委員会としても、本調査結果から見えた成果や課題を今後の教育施策に反映させていく。

### 1 平均正答率及び平均無解答率の比較について

#### 《平均正答率について》

本区の平均正答率について全国と比較した。

令和5年度は、小学校は国語、算数ともに全国を上回る結果であるとともに、国語については東京都の平均正答率と同等となった。

中学校では、数学については全国と同等となり、国語と英語においては全国を上回る結果となった。

#### 《平均無解答率について》

令和5年度は、小学校において、国語、算数ともに、全国より無解答率が上回った。中学校においては、国語、数学、英語全てにおいて、全国と比較し無解答率は下回った。

無回答率の高かった問題を分析したところ、無解答率が高い国語の問題において、「複数の条件を満たしながら自分の考えをまとめる」問題は、解答はしているが複数の条件が満たされていないという誤答が多いことも分かった。

引き続き、板橋区授業スタンダードを徹底するとともに、正確に文章を読み解き、諦めずに粘り強く取り組む「学びに向かう力」を育成することが重要である。

### 2 正答数分布について

平均正答数は、小学校においては、国語、算数とも全国を上回った。中学校においては国語、数学は全国と同等、英語については全国を上回った。

中央値については、中学校英語が全国を上回り、それ以外については、全国と同等であった。今後も、日々の授業の充実はもちろん、家庭学習の励行や放課後補充教室の実施等の関連を図り、個に応じた指導を充実させていく。

### 3 各教科の結果の特徴について

#### (1) 正答率が低い問題について

正答率が低い問題には以下の内容があった。

○国語 ◇図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。

(小学校)



- ◇文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考える。（中学校）
- 算数・数学 ◇（2位数）÷（1位数）の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える。（小学校）
  - ◇事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。（中学校）
- 英語 ◇社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができる。（中学校）

これらの課題を解決するために、以下の取組を、授業革新、家庭学習、放課後補充教室、長期休業中の課題等を学校全体で組織的に計画して推進していく。

- ☐各教科における基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。
- ☐教科書を活用し、文または文章の内容や構造を理解して、正確に読み解く力を育成する。
- ☐複数の情報や条件を踏まえて、自分の考えを70～120字程度で記述して説明させる。
- ☐児童・生徒の主体的な学びに向けて「板橋区 授業スタンダード」による授業革新を一層推進する。
- ☐一人一台端末を活用して個別最適な学びを実現する。
- ☐「板橋区 教科等指導専門官」の授業公開等、参考となる授業を積極的に参観する。
- ☐学びのエリアの小・中学校で学力調査の結果の分析を共有して、9年間で一貫した共通の取組を実践する等、カリキュラム・マネジメントをする。
- ☐家庭学習及び長期休業中の課題等について、教職員の共通理解と保護者への周知を一層充実させる。
- ☐学校支援地域本部と連携して、放課後補充教室等の充実を図る。

#### 4 児童・生徒質問紙と教科の平均正答率との相関関係について

児童・生徒質問紙調査との関連性から、次の点が各調査の正答率と強い関連があることが分かった。

- 自分のよさが分かっていること。
  - 読書をする習慣があること。
  - 家庭学習や宿題を、自分で計画を立てて行っていること。
  - 授業では、主体的に課題解決学習や話し合い活動に取り組んでいること。
  - 友達と話し合い、自分の考えを深めたり、広げたりできること。
  - 授業で学習した内容を振り返り、次につなげていること。
  - 授業でコンピュータなどのICTを活用していること。
  - 地域や社会をよくするために何をすべきか考えること。
  - どんな問題でも最後まで取り組もうとすること。
- 今後も、保護者や地域の方々と連携して、以下の取組を推進していくことが大切である。

- ☐自分のよさを実感できる働き掛けをする。
- ☐読書に親しむ習慣づくりや家庭学習をする。
- ☐学校のきまりや学習規律の徹底を図る。
- ☐「板橋区 授業スタンダード」を徹底する。
- ☐一人一台端末を活用する。
- ☐主体的に授業に取り組み、話し合い活動をする授業革新を一層推進する。
- ☐地域との関わりをもつ機会を設定する。

## 5 学校質問紙と教科の平均正答率との相関関係について

学校質問紙に関する調査結果から、教科の平均正答率との相関関係が高い傾向がみられる質問項目の中から、本区の施策等と関連のある質問項目について分析し、以下のことが分かった。

### ○主体的・対話的で深い学びについて

児童・生徒は授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか。（「どちらかといえばそう思う」を含む）

中学校において、全国や東京都に比べて低い傾向がみられた。特に、「そう思う」（どちらかといえばそう思うを含む）と回答した割合が、全国と比較して10ポイント以上低い傾向にあった。

☞教員が説明し、児童・生徒がそれを聞いている時間が長い授業ではなく、発問を精選することで、児童・生徒が主体的に学習できる授業の実現するために、校内研修等を通じて授業革新に、組織的に取り組む必要がある。

### ○ICTの活用について

児童・生徒が一人一台端末を、授業でどの程度活用しましたか。

小中学校共にほぼ毎日と週3回以上を合わせて95%以上で、全国や東京都と比較して非常に高い結果であった。

☞授業の中で効果的に端末を活用する場面も多く見られるようになった。今後も、授業における効果的なICT活用について研修等を行い、一層推進していく。

### ◎学級活動について

学級生活をよりよくするために、学級活動（学級会）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか。（「どちらかといえばしている」を含む）

小学校は全国や都を上回り、中学校は、全国や東京都と比較して低い結果であった。学級活動の理解と実践がより一層求められる。

☞「いたばし 学級活動の日」等を含め、年間計画の作成・見直しをし、より充実した学級活動を実施することで親和的な学級づくりを基盤とした子どもたちの自治的能力の育成を図っていく。

### ○家庭学習について

家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた。（「どちらかといえば行った」を含む）

家庭学習課題の与え方について教職員で共通理解を図った。（「どちらかといえば当てはまる」を含む）

家庭学習の方法について具体例を挙げながら教えたという項目については、小中学校ともに全国と比較して低い傾向がみられた。また、家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図ったという項目は、小中学校共に全国より低い傾向は引き続いている。

☞今後も、各学校の児童・生徒の学力調査の分析を踏まえ、学力の定着・向上に向けて、一人一台端末の活用も含め、家庭と連携しながら取り組む必要がある。

### ○小中一貫教育に向けた取組

学力調査の分析結果について、近隣の小（中）学校と成果や課題を共有した。（「どちらかといえば行った」を含む）

小（中）学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った。（「どちらかといえば行った」を含む）

学力調査の分析結果についての近隣の小中学校との共有については、小中学校共に全国と比較して高い傾向にあった。また、授業研究などの合同の研修については、国や東京都と比較し非常に高い傾向であった。各学びのエリアでの取組が一層進んでいる。

☞今後も、小中一貫教育の充実に向けて、各学校の学力調査の分析や児童・生徒の課題について学びのエリアの小中学校で共有し、9年間を通した学力の定着・向上に向けた取組について研修や研究を一層推進していく。

### ○コミュニティ・スクールに向けた取組

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。

全国や東京都と比べて非常に高い傾向にあった。コミュニティ・スクール実施に向けて、各学校において、保護者・地域との連携を深め、協働して児童・生徒を育成する意識の醸成に向けた取組が進んでいる。

☞今後は、保護者や地域の方々と、「育てたい児童・生徒像」について共通理解を図りながら、連携・協働を一層充実させ、児童・生徒の育成に取り組む。

本報告書を参考に、各学校が自校の学力に関する状況を詳細に把握して課題を分析し、「読み解く力」の育成を軸にした授業革新を一層推進し、児童・生徒の学力向上を図っていく。

令和5年10月 板橋区教育委員会事務局指導室